

勢陽五鈴遺響

度會郡

三十五

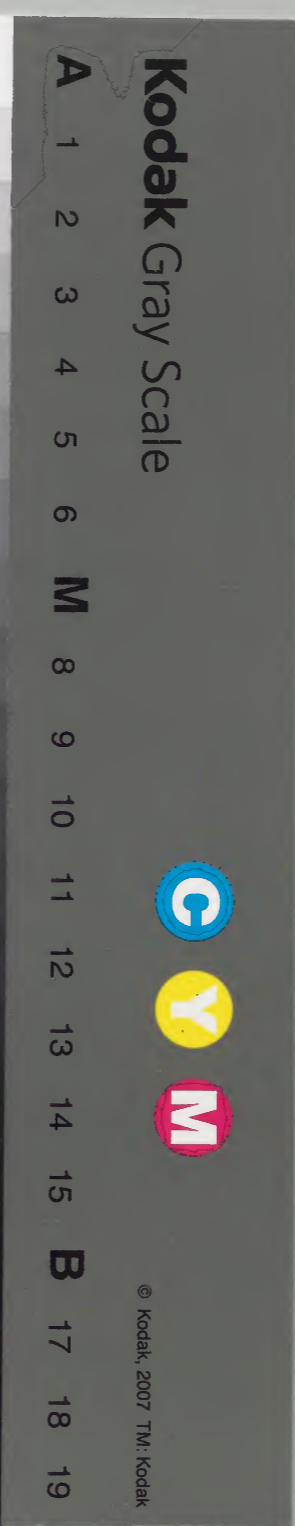
和書門
二九〇一九
函號
架
冊

和書類
二九〇一九
冊
架
函
一七二函



内閣文庫
番號 和 29019
冊數 40 (35)
函號 172 310

内一〇七三三號



陽止鈴遺...

皇宇崎...

足崎...

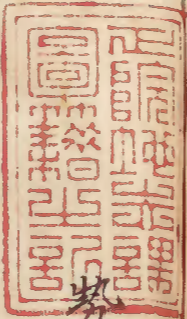
足崎...

足崎...

足崎...

足崎...





勢陽五鈴遺響度會郡卷之七

丙一〇七五號

豐宮崎 豐受 宮又城岩 戸山ヨリ東南ノ尾崎
ノ東西五町 南北四五町ノ処ヲ称ス豊受宮ノ

尾崎ノ謂ナリ 平田林泉アリニ称宜貴彦曰

御田奈ノ謳哥ニ 早振神乃惠於宇氣曾邊而豊宮寄爾早苗



旧名 岩屋本縁ハ宮崎ノ大海海原ト載タリ

或錦河内又錦ノ小河氏古哥ニ詠リ方俗宮崎

トノニ称セリ錦河内ト称ハ四面林嶽圍繞ノ

其間ニ小河或田圃連綿トノ錦ヲ織ルノ経緯

ニ比ノ其致景ヲ賞セルナリト云実ニ坊街俗
閑ノ地ヨリ稍ク此ニ遊觀スルニ山河相錯リ
淨寂トメ避塵ノ境ニメ本郷第一ノ勝地也
名所園會豊官崎ハ御田ノ地名ナリ或錦河内
滄海原ト載ルハ非ナリ御田ノ地ノニ非ス
總名ナリ
田上大水神社ヨリ西ニ梶カ森アリ耕田ノ間ニ
前ニ載ス車塚ノ如ク一丘境凸然トメ爵樹稍
ク生セリ旧跡聞書云梶カ森ト云称号由来知
ル人ナレ又日記ニモニヘス或云官崎ヲ錦河
内ト云ニ扱テ田面ノ青々タル中ニ此表ノア
ルハ大海ノ船ノ楫アルニ似タル故ナリト云

ハ氏取ニ夕ヲサル妄説ナリ勢陽俚語ユレ
ニ從ヘリ今替ルニ御田ハ社ノ旧墟トスル説
アリトイヘ氏神祇本源ニ方位不合ガ故ニ今
從ハスメ其地異ナリ然レハ神社ノ地ニモ非
サルニ田圃ノ間ニ所存トスルヲ深ク思フニ
往昔ハ今ノ井谷山宮谷等ヨリ續テ滝波山ノ
東北岡本里ニ至リ平野ニメ林樹清泉相交リ
テアリレヲ後世ニ平坦ノ処ヲ田圃ニ耕耘メ
其地ノ旧名ヲ万世遺失セサラニカ為ニ此丘
境ヲ遺セシナルベシ梶カ森ノ名義ハカウチ
ノ森ノ轉訛ニメ錦ノ河内ノ名ニ扱テ旧名ヲ
遺セリト憶フヘシ強テ所傳トキニ此爵林丘

境ノ存スルハ此謂ナリ

文庫 豊宮崎高神山ノ東麓ニアリ外宮祠官ノ
徒学校ニノ藏書講習討論ノ処ナリ書庫方三
間前ニ講堂アリ横八間縦三間南面ナリ毎月
式日神藉儒典ヲ講ス其器ヲ擇テ講師ヲ置又
常ニ儒生一人ヲ給ノ管鑰曝書及曬掃ヲ掌シ
ム慶安元年出口信濃度會延佳其魁トノ同志
ノ祠官七十人ヲ盟ノ此庫及講堂ヲ造營ス此
地旧ト田沼相交リテ平壤ナリ方二十間ヲ築
テ創建ル処ナリ 今百十九人其黨ヲ 宮ヨリ修
理料二十石ヲ附セラル 料田米十石宮崎ニ
リ麥十石長屋村ニ 奉納ヲ書藉公卿侯家庶人ニ至テ一千二百

七十餘部奉納和哥連哥六十餘卷ヲ藏ム文庫
記及同圓説文庫天神万治年中詩哥同鎮座祝
詞詩哥等庫中ニアリ林道春同春齋紀州永田
善齋欽亭等記文アリ 講堂額ハ弘文院林学
士某筆表門ノ額ハ善齋道慶名豊宮崎文庫ノ
五大字ヲ書ス 講堂床ノ門ニ大神宮尊号後
陽院震翰ヲ掲ク 天明年中山田奉行山田肥
後守禁牌ヲ建不浄之輩不可入ノ文ナリ西門
ノ傍ニアリ昔時室新介直清 具原篤信 井
沢長秀 伊藤長胤 谷重遠等ノ学匠藏書閱
覧ヲ乞テ此ニ講談モアリ 東ノ庇ニ天満宮
ヲ祀ル万治年中ノ創建ナリ 庭砌ニ屋根桜

ト云称スアリ文庫落成ノ片度會延佳茅宅ノ
屋ニ寸苗ヲ自生ス延佳此ニ摸ノ裁年月ヲ經
テ高二圍五尺餘ニ花紅白相錯テ單辨山サク
ヲヨリ大ナリ春時騷人文客愛玩スルニ及ヘ
リ其後星移リ物換テ括折又孽ヲ生シテ宝曆
中ニイタリ再枯槁ス故ニ又孽ヲ移栽テ寛政
中ニ至リ高丈餘間敷往時ニ不易ノ羨觀ナリ
其傍ニ枯株モ存セリ方俗外宮正殿ノ茅茨ニ
生スルカ故ニ御屋桜ト称ス訛傳アリ
度會氏神社 田上大水社ヨリ二町南ノ山傍ニ
氏神村ノ東ニアリ此地ハ前山領ノ属ニメ村
邑ハ所謂論所ノ村ト云処ニメ度會郡本邑ノ

外ナリ往昔兵革ノ片他領ニ属タルヲ寛永中
ヨリ外宮ノ領裁ニ復セル処ナリ此神社所在
ヲ以テ氏神村ト称ス 神祇本源云氏神社坐
度會郡宮崎度會神主氏遠祖天牟羅雲命一名
天ニ上命又名後小橋命天御中主命十二世孫
也天照大神天孫ニ柱神天降坐時御前立天奉
仕神也即外宮末社四十七社乃内也南向ニ社
左西向三社右東向ニ社有是皆度會氏之先祖
之命達配祭処也 今詳ニスルニ祭神天牟羅
雲命ハ旧事記天村雲命會神主遠祖也ト載ル
ニ同シ其裔ニ二門四門ノ別アリ二門ハ當社
ヲ祀リ四門ハ田上大水社ヲ祀ル例ナリ又社

前左右ニ小祠六區アリ其所祭ノ神名ヲ詳ニ
セズ神祇本源所載ノ如ク称宜氏人ノ祖ヲ合
祀タル処ナルハ或度會延賢云度會氏社ハ
恐クハ天村雲命ヲ祀リタルニアラス遠祖村
雲命ハ既ニ上御井社ニ祀レリ彦国見加伎命
ハ国御社ニ祀リ大若子乙若子命ハ大間国生
社ニ配シ小夏命ハ田上大水社ニ祀レリ此社
ハ天日别命ヲ祀レルニ必セリ是ヲ以テ度會
氏ノ社神委ク配祭スル処ノ次第ナリト云実
ニ千古ノ確論ト謂ヘシ神宮雜例集中行夏
祭二月中ノ夏申詔カ
鼓岳山蓮臺寺ニ氏神村ヨリ巽位蓮臺寺村ニア

此村モ前号ニ所謂ノ論処ニ前山卿自属
不故ニ本郡ニ目ヲ隸セズ別ノ地ナリ寺刹ハ
前往昔今ノ地ヨリ四五町山中ニナリ後ニ此
ニ移スルニ系院ノ朝祭主永頼朝臣ノ建管ナ
リ長保二年八月廿三日永頼出家同廿四日卒
ス古事談云伊勢国蓮臺寺者祭主永頼建立
也從神事之間憚佛事思而送年月為祈請此夏
三月參篋内官夢中被開御殿乍驚奉見之処三
尺皆金色觀音像也仍其後所立之堂也云云
今惟フニ神官ノ徒ノ佛ニ歸スルハ其世ノ弊
風ナリ既ニ祭主定頼ノ雲居寺ヲ創建スルニ
同用ノ譚ナリ昔時ハ山中ニ建所五十鈴河豊

宮河ノ二流此山嶽ヲ挟ミテ中間ニ寺堂アリ
故ニ名テ鼓岳ト云ト土人ノ傳ナリ今ハ本邑
ニ移メ小堂一字僧一口ヲ置ノミナリ真言宗
ト本尊正觀音菩薩國順礼第五番
此山ノ佛々々之の甚き寺ソリシタ之也其あり此方滝
寺堂ノ傍ニ標セリ其奥ニ瀑布アリ夏月避暑
ノ地ニメ土俗盤植ニル処ナリ又本邑ノ隣
比ニ宇津末原五斗代ニ比比丸谷等ハ小邑
アリ夏ハ詳ニ次條ニ并テ云ハレ
前山 豊宮崎ノ南位ハ高岳ナリ西ニ傳外リ鷲
嶺ト名ク東位内宮城ノ犬牙スル処ハ鼓岳ト
稱込塔一山ニノ連続ス内宮城ヨ塔ハ西成ノ

位ニ當レリ總名ハ前山ト云又其南ヲ奥山ト
稱ス前山ノ旧名ハ旧記ニ左貴山ト云是前ノ
意ナルヘシ外宮域高倉山ニ南北相對ニ其前
ニ向フカ故ノ名ナリ或云往昔ハ天和都ヨリ
河俣谷ヲ歴テ田丸府ニイタリ佐八村ヨリ宮
河ヲ涉テ前山ヲ經テ宇治郷ノ浦田坂ニ依テ
ルヲ内宮ニ詣ルノ途次トス其時ハ外宮ノ前
ヲ望ミ到ルカ故ニ前山ト云今ハ外宮域ノ後
ニ入リ前山ト稱スヘキ意ナシト古今ノ沿革
測知ヘシトイヘ茂未詳今ニ至リ佐八ヨリ谿
路ヲ經テ間道アリトイヘ茂樵夫ノ路ニ出テ
古昔ノ官道ノ形勢ニ非ス憶フニ田丸城以東

ノ村邑ノ詣人ノ私ニ過タル路ナシ今ニ
土俗曰ル道ト称ス前山ノ私ニ外宮域ノ南面
ニアリ故ニ名ク外評ヘカラス又奥山ト云
ハ其南位ニアリ前山ニ對メ名ク其頂絶ノ如
ク鷲嶺ト名ク既ニ内宮域ノ東南神路山ノ異
名ニ鷲日山ト称ス西竺ノ靈鷲山ニ比メ神鏡
廣博記或ハ千載集西行ノ詠哥等ニ拠テ釈徒
ノ称ス外ナリ神路山ニ連続タル地ナレハ鷲
嶺ノ名ヲ冒スナルヘシ况ヤ方俗音ヲ唱フハ
非ナリトス此地曰ク武家ノ宰ナリ寛永十六
年九月十七日公鈞命ヲ蒙リ度神領ニ復不同
年十月八日日本郡一字郷公領ノ境ト神領ノ

堺ヲ定ム奉行花房志摩守ナリ又其後寛文七
年十一月廿八日紀州田丸領ト神領ノ境ヲ定
ム奉行栗山丹後守ナリ其時頂上ニ境目ヲ塚
ヲ築キ後世ノ標トス紀州公領神領ノ疆域ナ
ルカ故ニ土俗ニ三坪塚ト称ス外宮領ハ延宝七
年大村吉左衛門者ヲ命メ前山村邑ノ代官ト
シ宰セシム今ニ連綿ク鷲嶺ノ頂上ナレ路
程前号豊河橋ヨリ一鳥居ニナリ三丁間
鳥居ヨリ暗谷口ニ至リ壹丁半間井谷ニ至ル
七丁十八間宮山ノ後大石谷ニ至ル二丁十二
間長尾ノ下流ニナリ八丁十二間長尾ヨリ
亀五輪ニ至ル十三丁亀五輪ヨリ鼓岳ノ嶺ニ

至ル七丁三十六間同嶺ヨリ水飲場ニイタル
十一丁五十四間水ノ場ヨリ花田ニイタル
ニ至ル十三丁半同嶺ヨリ鷲嶺頂上ニイタル
十一丁半通計七拾八丁四十五間ナリ又高倉
山窟戸ヨリ鷲嶺ニ至リ直訂四十八丁許前山
郷ト称ス論所ノ村邑蓮臺寺 五斗代 氏神
村ノ宇津木原比比箇谷等戸数百十九字寛
永年中ノ改テ上惣ニ此山ハ西方位ハ豊宮河
ノ東ヲ限リ東方位ハ内宮域ノ西北ヲ限ル其
小字多シ山塚山田坊間久苗町威勝寺以
南ニアリ岩窟寺以テ藤本曠塚山ハ南ニアリ
別処寺山塚山ノ上ニアリ 卒都婆曠塚別所

寺山ノ東ニ河流ヲ隔テアリ此地ニ法俗所謂
和泉式部塔婆ト云アリ故ニ名々後世ニ此石
浮圖ヲ吹上町光明寺ニ移ス奥山某力宅後ニ
アリ 同処ニアリ雜記ニ瓶五輪ニ作ルハ非
亀五輪 同処ニアリ雜記ニ瓶五輪ニ作ルハ非
ナリ是世義寺中真閑山圓海律師ノ墓碑ニ以
其狀貌亀ニ似タルヲ以テ名々毎十月世義寺
如法写經修行ノ片寺僧等此処ニ詣メ法會ヲ
リ古昔世義寺三宝寺及光明寺各此地ニ創建
ノ寺塔連綿セリ季世ニ及テ悉ク山田坊間ニ
移シ建タリ其号ニ詳ニ載ル卒都婆曠塚名ハ
此三院ノ歷代ノ古墳ノ地ナリ故ニ今世和泉

式部及亀五輪等ノ名ヲ遺セリ和泉式部力墓
塔ノ事蹟ハ後條金鼓山光明寺ノ條ニ詳ニス
二黒山ニ亀五輪ノ上ニアリ屏風岩間ニ
黒山南ニアリ高ク聳夕陽中ノ岬ニ屏風
岩ノ東ニアリ花マ山ヲ也岬中岬岬ノ南ニ
アリ其餘蛇谷ドウカ嶺太谷河原谷
大ヅウ魚石宮手田名吉谷宇津木原
總裁ノ十九処外宮領ニ屬ス又花マ山ヲ也嶺
ヨリ四五町許南ニ三光坊窟ト云洞穴アリ相
傳此僧窟中ニ修行セシ処ト云破壊ス此処ノ
佛軀或ハ土器ヲ往々得ルナリ敢テ千古迄物
言テテ又土殿藥ノ類ノ若ク産ス雜記内宮

域ノ神路山ノ條ニ屠所ト云窟アリト云ハ是
ナリ以下ハ内宮ニ屬ノ東位ハ五十鈴河ノ西
位ニアリ其餘ニ詳ニス

中山寺

禪宗中山ト称スルハ今ノ滝波山ト鼓

岳ノ中央ニ居スルノ名ナルヘシ五斗代村ト

世義寺ノ中間ニアリ民屋ヲ隔テ浄地ナリ

教王山

神宮寺宝金剛院俗ニ世義寺ト称ス旧

名世木ニメ前山亀五輪ノ地ヨリ外宮域ノ西

坂世古世木寺屋敷ト云地ニ移ス又宮域ニ逼

ルヲ以テ寛文十一年今ノ地ニ再遷セリ此宮

域ノ外流水ノ隈ニ田時アリテ樋堰ノ意ニメ

世木ト假ニ名ク処ノ俗称ナルヘシ通海參

諸記云外宮ノ砌於世木寺建長七年十月ノ比
南都ノ上人数多内外宮為御法樂千部ノ法華
經ヲ轉讀セントシ侍リケル云云 又寺僧傳
云永祿元戊午年閏六月諸堂兵火ニ罹リ縁起
ヲ失スト云往昔子院十九院アリ今悉ク廢ノ
終ニ存ス坊舎廢ノ本堂一字古粧ノ遺ルノ
本尊某師如来ヲ安ス真言宗ニシテ神府古樸
第一ノ堂宇ナリ既ニ建長七年坂世古宮域ノ
西ニ存セルヲ閱ノ前山ヨリ移轉セシハ更ニ
往時ナルヲ知ヘシ或ハ永祿中ニ移スト云ハ
非ナリ又寛文十一年奉行東山下野守堂宇ノ
宮域ニ造ルヲ憂テ官訴ニ及テ本堂五百金塔

頭四百金ノ料ヲ賜ヒ及宮域ニ近キ坊間ノ民
家モ三千坪ノ地ヲ除テ移シ換止猶宮域ヲ犯
シコヲ恐テ今ノ豊河ノ北涯ニ長百八十間ノ
隄禦ヲ築ク其料若干金悉ク官管ナリ此片山
田坊間ニ存ス寺院悉ク遠地ニ移ス今ノ世義
寺及前田越坂中寺町人如シ此舉ハ寛文十年
十一月坊間火災ニ拠テ如此ノ盛舉アリ其災
ニ罹ル處ノ寺堂大小百八十九宇ニ及ヘ其後
條ニ詳ニス其舉ノ最第一ハ世義寺宮域ニ隣
比スルヲ以テ今ノ地ニ換移タルナリ開山未
詳中奥開山ハ圓海律師迺化年月未詳數世住
侶大ニ十九院ヨリ輪番ニテ寺務ヲ執ル今

ニ其意ヲ存セリ猶前ニ所謂ノ寛文中換地ノ寺院ニ交リ建リ故一山頭ハ真言密宗ニ限ルトハイヘ氏其郭外ニ至リ他ノ宗ノ坊宇モアハ今存スル処ハ覺弘院境内本堂ノ良位ニアリ修驗ノ先達ナリ地藏院覺弘院ノ東ニアリ境内勢至堂アリ威徳院其良位ニアリ役行者堂アリ其東ニ大師堂アリ福壽院本堂ハ北ニアリ今廢ノ七ニ清壽院本堂ノ西ニアリ今廢ス法樂舎其西傍ニアリ院五大カ菩薩堂其西ニアリ積法寺五大カ堂ノ西坂ノ下ニアリ南之坊其西隣ニアリ寶藏寺其西ニアリ本尊觀世音及聖天尊ヲ

安ス法雲寺其西ニアリ愛深明王ヲ安ス大畧今存スル処ナリ各郭ノ東西ニ二門アリ門内ニ所存ニノ古昔ノ十九坊ノ遺ルモノナリ古屋草紙神明山世義寺觀音国順礼第六番子早振云此老戸成切ひき親吾老へう川日乃影神明山ト所載ハ妄ナリ本堂ニ觀音ノ安ス此処ナレ是郭門ノ外ノ慶宝寺ニ置処ノモノニノ世義寺ノ坊中ニハアラス此本堂ノ北隣ニ惣門アリ其郭ヲ旧名白子菌ト称ス本堂坊宇ノ存ス地ハ滝波山ト称ス郭外ニ慈照院惣門ノ西傍ニアリ南之坊其北ニアリ俗ニ口ノ坊ト云郭内ニ古昔ヨリ南坊ト称スアリ

奥ノ坊ト云此ニ對スルノ名ナリ寺傍ニ稻荷
社近年秋葉権現祠ヲ併建ツ旧ト此処ハ前野
町ヨリ近ス処ナリ次條ニ詳ニス 重清寺其
北ニアリ 御釈迦山慶宝寺南坊ノ東向ニア
リ 妙林菴其北ニアリ 南ノ坊ハ旧前野ト
岡本ノ間坊山ノ傍ニアリ慶會清在名跡聞書
云或説ニ今世義寺ニアリ南坊ト云寺此山際
ニ居タリ是ニ由テ坊山ト云今此山際ト小路
ノ坊ノ世古ト云云 度會延貞塾居紀談云伊
勢カ川チハ狐ノ名ナリ岡本町ニ松本十藏ト
云者アリ坊山南坊ノ住持カ兄ナリ少カリシ
片江戸ニ止舎ノ有ケル寛文六年ノ夏深川木

田次左衛門ノ奴婢ニ狐ノ附タルニ顧問タル
ニ彼奴婢蹲踞ノ十藏ヲ敬ヒケル十藏怪ニ吾
ヲ如是敬スルハ何故ソヤト問フ足下ハ伊勢
ノおつち殿ノ所縁ノ人ユヘニ敬フナリト答
フ十藏何トテ吾ヲ見識レリト云ケレハ我ハ
遠江國辨次郎狐ナリ先年伊勢詣ノお川チ殿
ヲ问候ヒキ坊山ノ下ニノ足下ヲ見参ラセ侍
ル故ニ見識タルナリ南坊ハ坊山ノ主足下ハ
其兄ナレハおつち殿トハ由縁アル故ナリ伊
勢ノお辻との近江ノ浦ノ小舟ヲつとの當地
野瀬ノ宗十郎トのトハ此三人ハ吾輩ノ中ノ
宿徳ノ司ナリイカテ其所縁ノ足下ヲ尊ヒサ

テニヤト云十藏不測ノ下氏ヲ聞哉吾今日避
近セレシルヘニ奴婢ヲ避テ給ヘヨト云ケレ
ハ遠江ノ某処ニ我住ケル宝殿アレ氏顔落夕
リ是ヲ経営ノ玉ヒナハ速ニ避クヘシ伊勢お
川ちとれ、宝殿モ損傷タリ足下ヨリ營ニ玉
ヘカレト云ケルイト易カリケル願ナリトテ
江戸ニノ相互ニ宝殿ヲ造リ調ヘテ次郎左衛
門ハ遠江ニ送リ十藏ハ南之坊ヘ送リケル南
坊今ハ宮崎白子菌ト云処ニ移住シケレハ坊
ト押並ヘテコレヲ建テ稻荷社ト崇祭リケル
今ノ社はナリ彼婢ノ狐妖モホトナク鎮リケ
ルトカヤ南坊ハ元来坊山ノ領主ノ縁ニ因テ

毎月朔日上部氏ヨリ米一升酒五合南坊ヘ携
来テ是ヲ炊キ坊山ノ神殿ヘ供ヘケルニ中葉
坊山ヲ上部氏乞得テ其報礼ニ宮崎ノ白子菌
ト云処ヲ譲リケル寛文ノ火災ノ後南坊白子
菌ニ移リシカハ毎月朔日ニ上部ノ家従米酒
ヲ携来テ坊ニノ炊キ今稻荷社ヘ供ケルナリ
白子菌ハ世義寺ノ門前慶宝寺ノ辺ヲ惣シテ
云ナリ云云今案スルニ南坊ノ北隣ニ祭ル処
ノ小祠是ナリ又勢陽雜記云慶宝寺山田ノ
中前野町ニアリ内宮護広堂ト同時ニ秀吉公
建立ナリ山門アリ本堂本尊釈伽像長七尺許
西ニ大師堂觀音堂鎮守ニ社アリ云云今詳ニ

スルニ是明應年中ノ著作ニノ當時ノ形勢ナ
リ今ハ此地ニ移ス寛文年中ノ火後ニ拠リテ
山門及諸堂鎮守等ノ經營ナレ只坊舎一字ノ
古昔ノ本尊釈迦佛ヲ安ス故ニ釈迦山ノ号
アリ傳云天正十九年宇治ノ不動堂ト同時
ニ豊臣秀吉公ノ創建スル処ト云猶法樂舎ハ
後宇多帝朝ニ二宮氏ニ勅創アリテ不断統經
法樂セシメ玉フ処ナリ是澆季ノ弊政奈何氏
スヘキナレ今外宮ハ此山中ニアリ内宮ハ廢
メ七タリ總ニ其跡ヲ遺ストイヘ氏烏有タル
ニ同シ世義寺ノ本堂ニ九月下旬ヨリ十月
中旬ニイタリ三十箇日ノ間ニ如法經頓寫ノ

法會アリ本院ト及三寶院ニ箇寺ニノ執行ス
寺僧等書寫スルノ間ハ齋戒甚嚴ニノ紙衣ヲ
被キ用紙ハ葛糊ニテ継キ別ニ禁秘ノ井アリ
此水ヲ汲テ洒灑キ及硯墨ノ用トス藁ヲ以テ
筆ヲ製シ清潔ニメ書寫ス古昔ハ音樂散華ノ
式モアリシト云今ハ廢メ亡レ此時衆僧ノ一
奇ノ草履ヲ用其狀ハ稻藁ヲ用テ三束ニシテ
組合セテ尾ハ刀ヲ以テ切斷タルノニ其鼻ニ
緒ヲ着付ル尤不便ノ具ナリコレヲ旧名ケハ
ト名ク賀茂神宮ニ神田植ニ用ルト同シ又朝
家ニゲバト称ス藁草ニテ造ルヲ井ゲバト名
ク職人哥合ニ載タリ是上古ノ遺製ナリ此行

度ニ用ル經筒一口アリ陶器ニシテ長一尺餘口
經七八寸許銘アリ曰

敬白

奉施入如法經筒一口在志者為教豪尊矣出離
生死頓證菩提施入如右

治養二年七月十二日造之 願主僧寬喜

造手藤井成重

敬白

ト彫セリ或云又一口アリ長寛元年造之ト云
未其真ヲ不知治養中ノ所造ハ親見スル処ナ
リ新刊名所國會云此寺ヲ移セシ片壺二箇
ヲ掘出セリト云非ナリ是往昔ヨリ傳來云ル
処ノ經筒ニメ固有云ル処ナリトシ瀆波山ノ

地ニ古昔ノ寺刹アリタルハ未識処ニテ然ル
ニ土中ニ所得ト云テ孟浪ノ言ナリ三十日ノ
書写畢リテ後十月中旬ノ曉天ニ經塚ヲ收ム
ルナリ其行装ハ輦輿ノ如キニ寫經ヲ昇テ衆
僧警衛メ笛太鼓ヲ囀テ道路ヲ行ナリ赤
黄白青ノ小紙ヲ剪テ竹筐ニ盛テ手ニ持歩ク
ルニ隨テ四方ニ散テ是音樂散華ノ式ヲ畧ス
ル処ナリ坊間ノ兒女輩出テ觀ルドウヒト稱
ス是ハ笛大鼓ヲ奏ノ其声ノトウヒト聞キ
ルニ批テ名々処ナリ本院ト三寶院ト其式相
同ニ其納經スル処ハ地ニ各異ナリ本院ハ常明
寺ハ南ノ經テ峯ノ地ニ收ム寫經ヲ納ムル

地故ニ名アリ三宝院ハ上中郷領ノ天神ヲ上
ト云処ノ墓地ニ收ム各歳上古ヨリ断絶セズ
ノ今ニ然リ惣ノ写經ノ式ハ勅願アリテ慈覺
大師ニ権輿ノ諸州諸山ニ修行アリシニ又中
世国毎ニ必固一処ヨリアリタ山力代々ノ兵乱
ニ各廢絶ハ播州外書字山ト當山ノ八遺ニリ
書写山ノ名モ是實松山道太平記十三卷書写
山行幸條云主上不斜信志ヲ願カセ玉テ則當
国安室ノ郷ヲ御寄附アリテ不断如法經ノ料
所ニシ擬セテラシケル云云前ニ録ス如以世
義寺及光明寺等ヲ坊間ヨリ僻遠ノ地ニ移シ
タル六寛文十庚戌年十一月十四日亥刻坐中

之郷領大間廣奈多屋世古六兵衛寡婦力家ヨ
リ火火ス上中之郷ヨリ岡本小田橋ニイタリ
北東ハ吹上町善光寺ノ西ノ隈ニ及フ総テ五
千七百四十三戸佛寺百八十九宇死者四十
九人ナリ是近世ノ大災ニメ神府古昔ヨリ相
傳ノ遺宝文籍等多ク回録ス惜ムハシ猶坊間
ノ寺宇ハ火災ノ後他処ニ移シ建タルナリ故
ニ古昔ノ所在スル処ト今ノ存在スル地ヲ異
ニスル多シ世義寺ノ如キハ火災ヲ遁ルト云
ハ氏宮域ニ近カ故ニ此時ノ幸トメ今ノ地ニ
移ス処ナリ寛文中島有トナル処ノ寺宇ヲ其
左ニ列ノ往昔ノ所在ヲ記ス

下中之郷領 慶性寺 方順寺 寿福院 般
舟庵 表之坊 惠林院 日空寺今存 自笑軒
普門院 高乾庵 忠光庵 惠中庵 法寿
庵 常頓志田中 志中衆志人 善覺寺
大信寺今越坂ニ 慈德庵日上
八日市場 梅真庵今存 常樂坊 謙康庵今存
吉祥寺 志ゆらん せいー けいー
曾祢町領 惣持寺 周見庵今存 惠恩庵日上
光善寺日上 德宥院 明林庵 天機院今存
念信庵 法花庵 向陽院今存 梅里庵今梅里軒
豐徳寺 鏡田寺 一行寺今存 菩提院

大世古一木領 淨清院今存 十王堂 欣淨
寺今存 長溪院今存 無量寺今存
大西坊 來迎寺 法泉寺 常光寺 是心
庵 入林庵 淨宗軒 清露院今存 久安
院 淨閑寺今存 等雄院今存 西迎院日上
法持院日上 惠清庵 正悟寺今存 源福
寺今存 吉蔵庵 撰取院今存 地藏堂
日輪庵今存 歡正庵 正真坊 實性寺今存
文廣院 淨念庵 受傳庵 周閤庵 妙法
寺 十王堂今存 地藏院 西念坊 忍
一坊 妙志由坊 妙典院今存 喜宗庵

一志久保町 明上院 大聖寺 極樂寺 今存

宮後西河原領 明鏡寺 今存 善祿寺 今存 崇恩

祥光寺 盛廣院 今存 養草寺 今存 西念寺 信行院 今存

惠雲坊 永藏寺 梅喜庵 長昌庵 今存

意松軒 今存 香輪庵 善教寺 正法院 惠

雲軒 利典庵 今存 利典 一行庵 西梅樹院

久昌院 得祐院 玉池庵 三章軒 香輪

寺 西可月庵 良載庵 淨運庵 淨仙庵

盛林庵 淨甫 真心 常心 忍寺人

大如者由人 方也 妙心寺 妙心寺 妙心寺

田中 中世古町 大念寺 今存 珂養軒 今存

開照院 日上 常林庵 法壽庵 淨泉庵 今存

与阿弥 阿弥陀堂 行阿弥 會福寺 今存

下馬所前野 善導院 今存 信敬寺 榮善寺

耕庵 日上 慶空寺 日上 不相院 日上 本覺

妙安院 長行院 今存 妙心 妙心 妙心

庵 妙心 妙心 妙心 妙心 妙心

岩淵 吹上町 光明寺 今存 東漸庵 日上 廣德

寺 日上 瑞慶院 日上 大休庵 高源寺 今存

易玉庵 聖壽寺 今存 常德庵 延命寺

地福院 今存 臨將明王院 不動院 今存 惠

屋 東禪院 福壽院 慈眼院 今存 真宗悟寺

五大院 今存 覺悟院 真福寺 清雲院 正

寿院 今存 信入庵 慈眼庵 上善寺 今存

善念寺 文珠堂 南之坊 今存 貞永寺

勸喜院 今存 喜泉庵 田海院 以上大小

合百八十九宇外ニ尾寺二十一字畧之内六十

宇今世存在スル处越坂中寺町前田世義寺境

地ニ移ノ寛文以往ノ再営ナリ其餘宮域ニ遠

キ地ハ猶今ニ其地ニ所建モ多シ河崎舟江郷

ノ如キハ此外ナリ寛文祝融ノ為ニ百二十九

宇ハ廢絶ス猶宝永三丙戌十一月二日及明和

元甲申十二月十八日丙辰ノ大火災ニ焼亡ス

ル处枚挙スヘカラス然レ氏坊間ニ遠キ地ハ

其患ニ罹ルナレ故ニ所在スル处ナリ

滝波山 勢陽雜記云滝波トハ岡本ノ巽宮崎ノ

内ニ小キ橋アリ是ヲ滝波ノ橋ト云滝波山ハ

最其橋ノ巽ノ方ナリ今詳ニスルニ此言ハ伊

勢名所拾遺ノ注ヲ奉タルナリ今ノ世義寺境

地ノ山ヲ爾云ナリ其麓ノ田間ニ架セルカ故

ニ滝波ノ橋ト云ヘシ

滝波の山ノ小キ橋ノ巽ノ方ナリ今詳ニスルニ此言ハ伊

勢名所拾遺ノ注ヲ奉タルナリ今ノ世義寺境

地ノ山ヲ爾云ナリ其麓ノ田間ニ架セルカ故

ニ滝波ノ橋ト云ヘシ

雜記成光ニ作ル非ナリ山中為綱注ノ云近

來鹿ナト近ツク処ニ非ス昔ハ市中ヲ遠サカ

リケン左モ有ヘシ云実ニ然リ古昔ハ村邑

離カトメ今ノ如ク坊間ニアラストイヘトモ

此地ハ前山奥山等ノ山嶽ニ對メ鹿鳴モ猶聞

へレ況ヤ山ニ一ノ聞ト咏スル片ハ敢テ滝波
山ニ非ス遠山ヨリ幽ニ聞クノ風情アリ今モ
然リ常ニ閑寂幽邃ノ地ニノ風騷ノ士集會メ
玩愛スヘキ浄境ナリ
八束山 同記云此山ハ素盞烏命ヲ祀ルト云傳
ヘリ本拠未考ナリ素盞烏尊ハ八束ノ鬣生ク
リト云ヘルナレハ斯名タル山ニヤ覺東ナレ
云云今詳ニスルニ滝波山世義寺境地ノ坤位
ニアリ土俗ヤドカト云雜記所謂ハ古事記
云速須佐之男命不治所命之國而八束須至于
心前啼伊佐知伎也云云此言ニ拠テ暗ニ合ス
新ト歎スル処ナリ一度會清在云此山ニ古昔素

盞烏尊ヲ祀レリ彼尊八束ノ鬣生ヘルト云ニ
隨テ号スト今ハ社頭モナレ山神ト称ス小祠
一字遺レリ其傳記未詳 又滝波山ノ東ニ連
リテ小山アリ八幡山辨天山ト名ツク各其神
祀ス祀レリ 又八幡山ノ東ニ虎カ屋山ト云
アリ頂ニ一株ノ古老松樹アリ狀幡屈ノ蓋ヲ
張タル如シ土人笠松ト称ス此山ヨリ東南ニ
連リテ波濤ノ如ク永代山ト云アリ其尾崎ハ
經カ峯尾上山ニ巽位ニ俯ノ連続ス猶虎尾山
ノ事跡ハ尾上陵ノ條ニ詳ニセリ 又世義寺
ノ南ノ麓田間ニ不動池ト称ス小流アリ巨巖
疊ニテ池ノ狀ヲナス世俗云水底ニ弘法大師

不動尊貌ヲ岩石ニ彫ル瘞ハ処ナリ故ニ名ク
ト是彼徒ノ常言ナリ或ハ旧名滝谷ト云所謂
滝波山ノ名ニ應メ古昔ハ水流ノ激メ瀑布ノ
状ヲナス地ナルハ柔田ノ變今古異ナリト
云ヘシ又尾上陵ノ因ニ拠テ隱ノ池ノ旧址
氏云未難真ト云
岡本里外宮域ノ南ヨリ内宮ニ至ル坊間ニノ
今岡本町ト称ス往昔ハ今ノ滝波ト称スル豊
宮崎ニ接ス西南ノ村邑アリテ古哥ニ咏ス
処ナリ東北ノ岩淵ニ接スル処ハ民戸ナシ故
ニ今東町ト称ノ本坊ニ属ス風土記云大国王
神資弥豆作カ良比賣命参来迎相土橋郷岡本

村云云倭姫命世紀相同又神名秘書云度
會郡者大国王奉迎之時以梓弓為橋而度焉爰
大国王神佐々良姫参来迎相土橋郷岡本村
度會云焉因以為名也後ニ繼橋ニ作ル孰レ神
世ヨリ存在スルノ地ナリ神府第一ノ旧址ト
謂ヘシ岡本ノ名ハ外宮域外四至ノ山岡多シ
コニ拠ルノ名ナリ故ニ新名所哥合権大納
言藤原為世卿判詞云此里彩名西ノ歌ニ出
テ里セリト云ヒ名ニおろく事アリテ此
ナリト云

新名所哥合 大中臣定忠

深アリぬ事ノ之は浮きれ去りてかほは乃里

荒木田延行

藤の葉を此すも田は秋の戸啼くおふれ里よ衣の川を里

僧都行室

まひりする秋のやうに曇れ里乃去れよ男麻のなを

法眼能圓

衣おきぬれ着て秋風のまをれをたむおくやふさと

荒木田成忠

世を此れ里をか山のをくれは間にまをさすくくのそ

長良

天國を此れ里にすはれ秋のそよ風をよきとくもたふや荒のつら

成行

徒をくれつてあ葉をよき曇れ里よまひりをもく川衣の部

大法師良玄

月木の葉をば色のちくちくは深かき一はるてくくは曇れ里

経顯

周本の里よお葉よ去れれを葉のそよ風の衣うらなを

四親

秋まりのまをれ乃かひひまをて庭も秋のなを曇れ里

定顯

風よはかゆのなをふ音かえてまをれなるを曇れ里

良譽

衣やまをれ初葉くくは秋の葉をくくおくお葉を

尊親

去るま川、木の葉をゆく曇れ里死すくは秋の葉を

全日本尊忠

衣の考も亦まむ秋風のなほれ寒寒れ吾本のさそ

荒木田成言

沱波の山うまきく麻の多ふ藤足佛に吾本乃さそ

今詳ニスルニ岡本ハ坊間一列ニ存スレトモ
前ニ所言ノ咏ハ各坤位ノ滝波山ニ對スル地
ヲ指スナリ今ノ東町ト称スル地ヨリ以東ハ
小田ト称ス故ニ小田神祠ト云アリ入門寺ノ
門際ノ西ニアリ今ニ於テ建堂ハ住人小田監
物カ家ヨリ金ヲ聚テ事ヲ修スルナリ小田土
民ノ産神ナリ坊間櫛ヲ造リテ詣客ニ鬻ク多
シ岡本町ニ裁メ上之切中之切下之切ハ即小

田ナリ戸数四百四十一軒町長岩戸坂ノ木
戸ヨリ小田橋ニ至リ二百九十六間三尺外
宮域ヨリ南北ノ内宮ニ至ル本路ノ豎町ナリ
其隸スル処ノ小路左ニ列ス上ノ切木戸ノ前
ヲ山ノ腰ト称ス即宮域ノ高倉山ノ東ノ麓ナ
リ天窓戸ニ詣ス此客各此处ニ下リテ内宮ニ
詣スルナリ故名ク旧此地ハ高倉山ノ尾崎今
堀切ノ地ニ垂テ本坊ノ北郭岩淵ニ逼リ接ス
ル処ハ坊山ニ連綿ハ一山ナリ前ニ謂寛文十
七年外宮一鳥居ヨリ南ニイタル詣路ヲ開テ
岡本ニ至レリ其時高倉山ノ東ヲ劈テ今ノ路
ヲ設ク故ニ坊山ハ半裁ノ今ニ絶ニ遺リ存ス

故ニ堀切等ノ名アリ本坊山ノ腰木戸ニ至リ
一鳥居ヨリ百六十三間新路寛文中ヨリ開ク
処ナリ其隸属スル坊間ノ小路ハ堀切前野
ヨリ岡本ニ至ル小路ナリ長ハ十六間坊ノ
世古本坊ノ東ニアリ即坊山ノ麓ニノ古昔南
ノ坊ノ所建ナリ今世義寺ニ移ス故ニ名ク
夷世古本坊ヨリ東ニアリ蛭子祠アル故ニ名
ツク高木世古本坊ヨリ西ニアリ滝波山ニ
イタル小路ナリ大世古本坊ノ東ニアリ
子祠東町等ニ至ル小路ナリ東町大世古ヨ
リ茶筥町ニ至ル横小路ナリ茶筥町本坊ノ
東ニアリ小路アリ風呂屋世古茶筥町ヨ

リ岩淵ニイタル小路ナリ丸ノ内東町ヨリ
岩淵ニ至ル小路ナリ前ニ載ス上部氏ノ郭内
カヲ指スノ名ナリ由ツボノ世古本坊小田ヨ
リ東ニアリ茶筥町ニ至ル横小路ナリ其民宇
矮小ニメ蝸序ニ似タルヲ謂ナルヘシ方俗田
螺ヲタツボ貝ト云ニ扱レルナリ畠中田ツ
ボ世古ノ東ニアリ横小路ナリ箕曲ノ青蓮町
ニ對ノ小河ノ水涯田間ニアリ故ニ名ツク
入門寺 滝波山ヨリ東世義寺ノ惣門ノ郭外ニ
アリ浄土宗 此寺ニ一僧世人ノ病患ヲ憂テ
茶治ヲ施スアリ近世ノ流俗タリ然レ氏郷民
及官河以西ノ村民往々至リ其茶ヲ乞フ多シ

壽巖院 同処ニアリ 浄土宗
上善寺 同処ニアリ 浄土宗 旧岩淵ニアリ 寛文
災後此ニ移ス
正住院 小田橋ヨリ 滝波山ニイタル南丘ノ上
ニアリ
支殊堂 同処西隣ニアリ 旧吹上岩淵ニアリ 寛
文災後此ニ迁ス
善念寺 上善寺ノ南ニアリ 旧岩淵ニアリ 寛文
中災後此ニ迁ス
如法寺 同処ニアリ 禅宗 中山寺ノ末刹ナリ
尾上川 今ノ岡本町ト妙見町ノ間ニ架スル橋
ノ下流ナリ 橋長廿三間 此河ニ架スル小田

橋ト云 他邦所造ノ製法異ニシテ半裁ヲ分
テ其正路ニ浄入詣客ノ涉ル処トス 又東西半
裁ハ不潔人及月經ノ婦女ハ過ル処ニ設ル各
板ヲ以テ架ノ中間ニ分裁ヲナシ 是異製ナリ
岩淵町下馬橋ト此ニ橋ニ限ル 其他宇治大
橋及筋向橋等ハ詣路トイヘ凡此例ナリ 尾
上川俗名御贄川 或ハ田川トモ云 或云御贄川
ノ称ハ往昔此河ヨリ運漕ノ品物ヲ大神ノ御
贄ニ献セシ故ニ此名アリ 或ハ神境ニシテ葬棺
ヲ架スル具ノ才ダト 俗名ス軍陣ノ死傷ノ者
ヲ乗スル筏輿ヲアラダト云 訛リテアラダト
云ラダハアラダノ畧訓ナリ 貞觀元年外宮

大内人高主ノ女大物忌子ニ補之朝ノ大御饌
ヲ外宮ヨリ内宮ニ運ヒ獻セシニ尾上河ニ洪
水ノ為ニ溺死ス其屍ヲ求ルニ更ニ不得妙見
星像ヲ探得タリ其像ヲ橋板ニ架ク後其屍ヲ
得ルモノト氏ニ昇送レ故テラダノ名ニ
扱テ橋及河ノ名ニ冒ルト云リ甚鑿以孟浪
ナリ非トスヘシ小田ノ名ハ既ニ神宮雜事記
ニ見ユタリ神宮雜事記云永養五年九月祭
使王孝資王中臣神祇權少副元範等也祭主永
輔依上奏沙汰不被免下同廿五日依平野御行
幸之御勅使参宮王正親成清ノ王中臣少佑公
輔等也而以午時ニ豊受大神宮参入即玉串供

奉之時ヨリ大雨如拔天俄洪水如海字ハ小田
橋流浮天宇治河水洗岸天人馬不通仍伴勅使
外宮一宿以明十六日内宮参宮已了云云コレ
小田ハ旧名ト謂ヘシ今詮スルニ水源ハ前
山長尾ヨリ出ル処ト鼓岳ノ下蓮臺寺村ヨリ
出ル処トニ流滝波山ノ西ニ合メ滝波ノ橋
ヲ經テ岡本ノ南涯ヲ東ニ田滝ノ間ヲ流テ此
橋下ニ至リ其末ハ前田ノ光明寺ノ北ヲ過テ
正善坊ニ至リ勢田川ニ合ス処ナリ其東流ハ
今古異ニメ敢テ激奔スル処ニ非ス小流ナリ
小田ノ名ハ豊宮崎ヨリ以東ノ田間ヲ回旋メ
流ルカ故ノ名ナルヘシ御贄川ノ謂ハ其水

流勢田川ニイタレリ往昔ヨリ此河ヨリ河崎
舟江ニ至リテ神宮ノ所地トス弘仁三年注進
状云勢田河ハ上錦河内下ハ至淡高城一向神
宮宮地也云云今ニイタリ河崎舟江ニ運漕ノ
賈船各貢物ヲ神宮ニ出スノ例アリ然レ氏御
贄ノ謂ニ非ス尾上ノ山ヨリ東西ニ至リ此地
ニ犬牙スル処ナレハ尾上河ノ名ヲ真トスハ
シ雜記云御贄川氏書リ按スルニ御鎮座ノ
片大國玉神ヲ迎奉トテ諸神弓ヲ繼テ橋トナ
シ大國玉神ト佐々姫神ト渡リ相玉ヘルヨリ
度會郡繼橋郷ト云ヘリ橋トサテ是ナラシ
又或云橋ヨリ上ヲ玉川ト云下ヲ二見マテ

間エセ云ダ川ト云又神道出相御橋ト看テヤ
ウガウノ橋氏云ヘリ云云是名非ナリ其繼橋
ト指ス地今古未詳ト云ヘ氏此方地ニ非ル
同ハ必セリ猶大内人高主ノ女妙見星像出現ノ
事蹟ハ妄誕ナル辨ハ詳ニ次條ノ岡崎宮ノ條
ニ贄セリ又此地ニ関鑑ヲ設レ事日記ニ見
エタリ是神境ヲ非常ヲ防禦スル力為ナルハ
シ猶後季澆政ニ至テ彼ニ宮ニ詣スル客ヲ内
外各別ニ拒テ抑留スル処ノ設モ謂ベシ防禦
ノ制ナリ片ハ式文ニ載スヘキ処ナリ然ルニ
未其徴ヲ得ス内宮寛正年中記云寛正四年三
月十日内宮祓宜連暑注進状云右仲夕関等夏

小田御関者為外宮造管料上者不及是非但最
初御成敗者可立置二俣辺之由被仰下欽然被
立小田之條神慮不相應之喧嘩出来既被破却
畢然又被立置神萬之間之糸神慮難測者哉如
最初御成敗被立二俣中野辺者神慮可相應云
云、度會清在云猶今上三郷領下ノ畠ノ字ニ
関場ト号スル地アリ此片ノ旧址ナル云
云、
岡崎宮 今ノ妙見町ノ東岡ノ上ニ建ル妙見堂
ノ地ト云或云上古岡崎宮ト称スル此堂ノ近
キ辺ニ了リ時代不知廢絶ニタル故ニ此地ニ
旧名ヲ存スルナレハ此云云此妙見堂ハ岡崎

宮ト云ヘキ神祠ノ製ニモ非ス尾菅ノ小堂ニ
宇アリ然氏堂前ニ鳥居ヲ建タリ他ニ異ナリ
トスヘシ旧ハ神官ノ所知ニハ神祠ノ如クナ
ルヘキニ後世ニ常明寺ニ掌ル処ニノ寺堂ノ
經營ニ換造リタルナルヘシト云孰レ岡崎
宮ト称ノ此ニ假借スルモノナリ其岡崎宮ト
云ハ何ノ神ヲ祀タルヤ未詳、度會清在旧蹟
聞書云岡崎宮ト称スルヤ妙見星ノ木像ヲ獲
テ此ヲ重祀ノ終ニ妙見木像ヲ神体ト為タリ
ト見エタリ然レ氏拾芥抄云妙見寺ハ在王城
四方ノ公事根源云妙見後朱雀帝長曆年中宇
治関白ニ仰含セラル、ニ御拜ハ有ルヘカラ

サレ由申サル其理アルニ拠テ御拜ハアルハ
カラサル由申サル其理アルニ拠テ御拜ハナ
レ拠テ妙見ノ岡崎宮ノ神ト為ヘカラサル
ハ知レ一説ニ岡崎ト云ハ岡本里ノ末ニモ
當リ宇治岡ニモ當ル故ニ岡崎ノ号其処ニ小
祠アリテ地ノ名ヲ以呼来レルナリ今妙見堂
ノ鎮守ナリトテ称スルハ是岡崎宮ノ遺ナリ
宮号ノ及フ社ニ非不俗傳ニ旧称ノミナリ旧
ヨリ小祠ノ神号ハ旧文ノ不傳何レノ神ヲ祭
ニヤ不知妙見ノ事ハ岩屋本縁ノ一書甚信レ
難レ昏ナレ氏其書云貞觀年中高主ノ童女小
田河ニ溺死ス其屍ヲ不獲メ妙見星ノ像ヲ獲

テ此山上ニ小祠ニ祭ルト云今ニ彼後裔ノ人
此堂ノ後ニ胞衣ヲ瘞テ故実ハ遺リタリ云云
毎事問ノ説大畧同レ岩屋本縁起云度會
氏遠祖大神王飛鳥末孫大内人高主貞觀元年
己卯十一月十五日一子前大物忌子入御贄川
卒去十五戌即時從御贄川淵底而得妙見星童
形像奉居尾部御陵以西小田岡崎宮其地利祈
氏人之繁昌專貞觀二年十一月十五日一胞二
人生男子宗雄冬雄是也同三年十二月十八日
同胞二人生男子春海秋並是也同四年十一月
十五日亦同胞二人生男子冬綿春彦是也貞
觀年中外宮ノ大物忌子御饌ヲ内宮ニ齎持メ

供スルノ支ナレ既ニ聖武天皇神龜六年正月
十日浦田坂ニ死穢アリ避ヘキ路ナリ内宮ニ
イタリ備進セシニ天皇御惱アリ神祇官陰陽
寮ニ命メ占セラルニ謹テ勅ヲ日異ノ方大神
死穢不浄ノ祟アリト奏ス即帝勅使ヲ差レ祈
謝セラルニ御惱平愈ス其後宜旨アリ今ノ外
宮御饌殿ヲ造立アリ二宮大御饌ヲ此殿ニ
兼備メ供進ス是ヨリ内宮ニ持齋スルハ廢セ
リ御饌殿本記及永正記延暦儀式帳神宮雜彙
皇字沙汰文等ニ詳ナリ然ル片ハ真觀年中内
宮ニ齋進ノ支ハ妄誕ナリ猶大物忌子死屍ノ
妙見星像ニ變化スルト云ハ虚誕ナルハ必セ

リ是其地常明寺ニ近ク彼徒ノ偽作スル処ハ
岩屋本縁ノ昏ノ如シ又妙見星像ヲ此高生ノ
女ノ溺死ニ託ノ兒童ノ形容ニ造リ及度會氏
人ノ胞衣ヲ藏ムノ地トスルモ釈氏ノ所設ト
ルヘシ然ルニ後世ニ至リ鹵莽ニメ土俗ノ童
女ノ化身ナリトテ小兒輩ノ病患ヲ祈ルニ至
レリ或云此妙見星像ハ軀長八尺斗童女ノ容
貌ニメ髮ヲ被リ左リニ指ヲ空ヲ指レ右手ニ
宝劍ヲ携ヘテ素木ニメ造レリ甚古樸ニメ上
世ノ遺物ナリ然ルニ近世彩墨ヲ加ヘテ潤色
ス信ヲ失フニ至ルト云妙見星像ハ實ハ宝鏡
ヲ着甲ヲ被リ宝劍ヲ帶ノ男子ノ状容ナリ全

ク毘沙門摩利支天部ノ像ニ同レ此像ハ異製
ナルハ彼高主ノ童女ニ擬スルモノナリ猶妙
見ト称ス名ハ甚審ニシカク北辰菩薩陀羅
尼經曰我北辰菩薩名曰妙見今欲說神咒擁護
諸国土所作甚奇特故名曰妙見處於閻浮提衆
星中最勝神仙中之仙菩薩之大將先見諸菩薩
曠濟羣生云云又大智度論曰妙見菩薩有妻
名喜德女又法苑珠林云時有菩薩名一切妙
見云云妙見菩薩緣起ニ妙見ハ或班足王及
尸醯修羅ノ前身元大正神北斗星漢云云真
武上帝ト名ノ班足王ハ賢愚經ニ載ス尸醯修
羅云大智度論ニ載ス大正神ハ漢書及綱鑑大

全事物紀原ニ載ス北斗ハ抱朴子及太上感應
編真武上帝ハ五雜俎神仙傳史記注等ニアリ
岡崎宮ト云ハ惣ノ妙見菩薩ヲ置ク処ヲ妙見
宮ト誤ルモ多シ疑クハ澆季ニ神境ニ秋氏混
淆メ區クトメ異説ヲナスアリ此片ニ宮号ヲ
称シ出タルナルヘシ其証ハ岩窟本縁及岡崎
宮妙見本縁二書ノ外神典旧記ニ岡崎ノ所縁
トスル亦見ナシ日本異記云河内国安福郡信
夫原寺者妙見菩薩燃燈ノ処今諸国妙見宮ト
云ハ妙見寺ニ誤レルナリト云是ヲ例メ知ヘ
シ况ヤ澆季ニイタリ常明寺ノ牛玉妙見堂ノ
牛玉宝印ヲ度會二門ノ氏人ニ今ニ贈シ是

秋氏ヲ混濁スル処ナリ又度會氏人人胞衣
ヲ此地ニ藏ムルハ岩窟本縁ノ遺例ニ拠ルナ
ルヘシ此ニ所謂冬綿同胞ノ春彦ハ度會氏ニ
ノ菅右府道真公ニ扈從セシ白太夫ノ事ナリ
既ニ洛陽北野菅廬ノ本殿ノ前東ノ傍ニ白太
夫祠ト云アリ社傳云勢州神主春彦灵ナリト
云本府ニハ彼神灵ハ松木町ノ松木社ニ祠レ
リ松木ヲ称号トスルカ故ニ其族ノ奉祀スル
処ナリ其條ニ詳ニス又聖廟湏戸記ニ云
本アリ其文中云白左主ト云ハ松木伊勢ノ
事ニ云クとい來里系家ノカト云ハ松木伊勢ノ
事ニ云ル上里也ト云ハ松木伊勢ノ事ニ云ル
乃

ちき里たうへまゝて來れるも我うつろひ而
をよみあるのやうはあやめく同しす家
族志ぬなんとして志すのみよ進里されとう川
ろいおよきおひもろく事ありて醒井乃
常末院の僧房よりろかせり云々
かりるひ免白左主のゆゑを湏戸と云ふ所ま
てとつれなひてなんあともるそにくのそれ
よつと云

君之位名のうすを由くして湏戸と云ふ事あり
此書ハ撰津州西湏戸村正前田某ノ藏ニ從ニ
位實積卿所筆ノ湏戸記一卷アリ又賀州金沢
河島某及浪華壺井某ノ本ト授合ス其真否ハ

知難レ今詳ニスルニ同胞三代ニ及テ其氏人
ノ後ニイタリ繁滋スル処ハ或ハ誣入カラス
今時菅公ノ吏ヲ作ル劇戯ノ俗謡ニ白太夫ニ
三男児アリ所謂松王さくら丸梅王等ノ名ハ
愛樹ニ託レ及冬綿春彦以上三代ノ同胞ノ起
原ヲ妄作ノ世俗ノ耳目ニ容ル処ナリ又此
堂前ニ鳥居ヲ建タルハ岡崎ノ宮ノ意ナルハ
レ常明寺ニ鳥居ヲ設レハ兩宮内院及尾上陵
ノ意ナリ又宇治慶光院ノ弁天祠ニ鳥居ヲ
設タリ是モ藝州巖島相州江島及江州竹生島
等ノ神祠ノ意ニシテ此三堂宇ノ他ニ寺堂ニ
鳥居ヲ建ルナレハ是神境ノ遺例トス他邦ノ

容看觀ノ奇トスルニ足レリ

妙見町 岡本ノ南ニアリ坊間長百七十四間民
宇百四十八戸旧ハ尾上坂ノ地ニメ民戸ナレ
岡崎宮妙見星像ノアル地ニメ妙見町ノ名ヲ
得タリ其属スル小路ハ清水世古本坊ノ西
ニアリ豎小路ナリ清泉アル故ニ名ク後号ニ
辨セリ 下世古本坊ノ西ニアリ小路ナリ
紺屋世古本坊ノ東ニアリ小路ナリ 妙見世
古本坊ノ東ニアリ民宇ナレ妙見堂ニイタル
徑ナリ 本坊ヨリ尾上坂ニ至ル東ニ小路ア
リ其路ハ今常明寺門前ニ至リ或ハ高源寺ノ
門際ニ至ル徑ナリ旧名御子カ坂ト云其所謂

ハ古昔此地ニ梓御子ノ住メアリシ地ナリ其
故ハ此東ノ岡ハ各墓地ニシテ寛文中ニ他ニ移
スルナリ其時マテ此ニ住ノ新葬ノ墓ニ詣ル
処ノ婦女ニ梓ヲ聞カシム処ナリ故ニ名ツク
今ハ其居モ廢セリ本坊ノ東ノ傍ニ小路ナ
リ林丘ノ上ニ尾部社ト云アリ是ハ尾上御陵
倭姫命ヲ私ニ定祀スル処ナリ旧ト寛文中大
官司精長撰社再興ノ時地ヲ探リテ再建セシ
ニ其方位詳ナラス故ニ破却ノ上ニ其後卿人
等私ニ謀リテ此ニ建タリ新刊名所圖會ニ倭
姫命石隱ノ地故ニ小祠ヲ建テ尾部社ト云云
此地ニ定タルニ似タリ非ナリ其陵ノ地今時

祠官ノ徒モ旧ク知ルヲ難シ故ニ寛文再興ノ
後ニ廢スルハ賞トスヘシ然ルニ郷民ノ設タ
ル処真トスヘカラス
高源寺ニ妙見堂ノ東ニアリ禪宗旧岩淵町ニア
リ寛文中災後此ニ移ス
東照山清雲院ニ坊端ニアリ其浄土宗門前ニ下
乗ニアリ
東照神君御側室阿夏尼公ノ開基ニシテ清雲院殿
ト号ス故寺号モ名ツク土俗おなりサマノ寺
ト称ス
神君ノ尊像ヲ安置シ奉ル延宝年中東都増上寺
知鑑和尚退休ノ地ニシテ一切經典及ニ一史

太平御覽等ノ大部ノ書其餘什賞奇宝多ク藏
セリ今世ハ散在ノ多ク亡セリト云 毎年四
月十七日郡宰ノ拜礼アリ 旧蹟昏云清雲院
ノ今ノ地ハ昔年久保倉ニ頭太夫所領タルヲ
東買得タルナリ其東南ノ方ノ墓ハ下三郷卜下
馬所妙見町等ノ墓ナルヲ寛文中御奉行衆
東山氏ノ命ニテ參道不淨ナリトテ新墓ヲ築テ
彼処ハ荒地ナリケルヲ延宝四年ニ清雲院ノ
住持知鑑彼荒地ハ寺域ニ続タレハ清雲院領
トノ此処ニ經藏ヲ營建シタキトノ莫ヲ衆山
氏ハ訴ラルニ由テ彼古墓主ノ町々ニ云テ永
以田地ニ成ヌキ莫ハ非ス經藏ヲ營建ハ亡者

ノ追福ニモナルヘシ知鑑ノ願ニ應メ清雲院
ノ境内分ニスヘシトテ莫畢リタリ元禄十四
年ニ彼寺ノ門前ノ東角ノ山ヲ平ニシ人家ヲ
建シトノ設シ故ニ岩淵町ヨリ是ヲ御奉行長
谷川氏ハ訴フ公命ヲ以テ止メタリ 享保十
一年東都ニ彼寺ノ支配人長谷川三十郎ト云
者彼寺無住ユエニ右ノ三十郎ヨリ寺ニ置タ
ル畱主居ノ中村甚兵衛ト談合メ旧來ノ什物
ヲ皆沽却シ其上ニ彼墓地ヲ畱ニスヘキ企テ
リケルヲ三方會合ヨリ昔ノ子細ヲ述ヘ又畱
ニスルハ触穢アルノ旨ヲ江戸ノ支配人ニ告
奉行渡辺氏ハ其下ヲ啓メ畱ノ事ハ止ムリ云

云村菊琵琶宮河夜話草云村菊琵琶ト云
アリ鴨長明カ琵琶ナリシカ此寺ノ什宝ナリ
此琵琶ニお菓ト草字ノ銘アリシヲおきくカ
琵琶ト讀ミ訛リテ具名器ナルヲヲ不知今ハ
此寺ニナシ尾張ノ名古屋ニ傳藏スルモノア
リト云云又寛政中橋春暉所著ノ北窓瑣談云
村菊ト云琵琶甲ハカリハナレテ伊勢山田ノ
古道具屋ニアリ草書ニテお菓ト甲ト表ニシ
ヘタレハおきくトヨシテ道具ノ會度トトニ
アナタコト夕纒ニ四文目三分ツニテ買取
リ二三年モ經テ有シカ後ニ尾張ノ人買去リ
テ村菊ナルヲヲ知り其後ニ江戸ノ方へ黄金
七十兩ニテ賣タリト云ヘリ今ハ何人ノ手ニ
入リシヤト云云是詳ニスルニ前ニ云享保十
一年什寶ヲ沽却セシ時ノ遺テ散失セシモノ
ナルヘシ惜ムヘキノ至リニ堪テ此ニ録ス

勢陽五鈴遺響度會郡卷之七

勢陽五鈴遺響度會郡卷之八

箕曲氏社跡 箕曲ニアリ坊間人家ノ左傍叢林

ニアリ拜舎鳥居ヲ建テ神殿ナシ其故ハ次條

ニ詳ニス 神祇本源云箕曲氏社在箕曲郷和

泉掾居住西云云其箕曲郷ト指メ此地ヲ今ニ

至リ箕曲ト称スル片ハ和名抄所出ノ箕曲郷

ノ魁首ニノ此地ヨリ始リタル名ナルハ

其南ニ岩淵ノ水涯アリ其北ニ宮河分流ノ吹

上ニ臨ム地ニ接スルヲ以テ水ノ曲隈ノ訓ナ

リ故ニ名クトスハシ 箕曲氏ト称スルハ度

會荒木田外人異姓ニノ未其姓ハ祠官トナキ

処ナリ今其地ニ居住スル厩造家ニ箕曲ト称
ス氏族アリ是古昔ノ和泉掾ノ類ナルヘレ箕
氏族ノ崇祀スル処ノ神祀ニメ今外宮末社ノ
列ニ入レリ孰レノ片カ洪水ニ流亡メ社殿勢
田河ノ下流船江領ノ水涯ニ祀レリ是寛文三
年大中臣精長官司ノ再興セル処ナリ此箕曲
ノ地ニ旧址アリテ神殿ヲ建サレハ此謂也
當社ニ獅子頭一口アリ其由来年歴未詳ト云
ハ氏諸家ニ所論ヲ摘テ此ニ録ス毎歲正月十
五十六十七日ニイタリ御カシテ神事ト云本
府市麩坊間ニ執行ス式アリ其社地ハ七処ナ
リ牛頭社ト久苗町ニアリ今社曾根高柳

町ニアリ土俗今村殿氏云大社一之木町
ニアリ箕曲社本坊ニアリ坂社八日
市坂世古ニアリ菖社外宮一鳥居左傍ニ
アリ前野下馬所ニ属ス藤社同北御門ニ
此七社各獅子頭七口アリ土人其社ノ
神體ノ如ク崇敬ス往昔相傳云其民家ノ惡
氣ヲ追テ箕ヲ二口合セテ獅子ノ頭ニ擬似
タルノ遺ナリト云其古樸察スヘレ今時二見
郷ノ三津村ニ毎年正月村民箕ニテ作ル処ノ
獅子頭ヲ祭ルヲアリト云其後本府ノ坊間ニ
モ次第ニ潤色ノ木ヲ殿ノ造リ彩色漆塗ニノ



用ルヲナリ数百歳ヲ経テハ其来由ハ不詳其
始ハ不知トイヘ氏其来ルルハ旧ト謂ヘシ
正月十五日ニ其坊間ノ宰ル処ノ神人アリテ
御棚屋ト称ス其家ノ廊ニ飾リ出ノ夜間ニハ
燈火ヲ献シ酒食ヲ調シ各其饗ヲナシ兒女ノ
輩ハ拜ヲナス其翌日ヨリ上館中館ノ間土手
原ト云北御門宮域ノ北ニノ鼓吹メ七口名乱
舞ス神樂役人其鼓吹ニ列シ舞畢リテ各其掌
ル処ノ坊廊ニ入り民家一字モ不遺メ戶外ニ
立テ其賽銭ヲ乞フ其祠官及旧家ハ古昔ヨリ
ノ旧式アリテ賤物及帑扇等贈ル品目アリ然
レ後其社前ニ飯リ氏人等沈醉酩酊メ狂躍戯

舞ス下衆人蔽口ニ至レリ其詭哥ニ汚穢以テ
ヲ謹フ此トキハ鼓吹ナレ故ニ壯男子ノ輩ノ
私ニ戯舞スルナリ其詭哥ニ古昔ヨリ傳フ処
ニメ誤リ聞クモノアリ或云其実ハ往昔神境
在邑ニ若水ノ式アリ一女子元朝ニ惣井戸ニ
倚リ此新汲水ヲ瓶セトスルニ其桶ヲ筐朽
テ飛ハシリ夕山ヲ不詳トス傍人慰テ云是必
不詳ニ非スト直ニ其桶ヲ奉テ獅子頭ニ擬シ
乱舞ス其詭哥云ハ真輪カハチケタラ桶屋ヲ
吹ノノ惣井戸ノ踊リ御方ノオビリト囃シテ
祝ス是ヨリ流轉タ今ニイタリ詭リ無下ニ詭
フナリ其惣井戸ト云ハ坊間小路ノ地ハ数戸

一井ヲ門外ニ構テ汲ム他邦ノ樋水ヲ採テ一
井ヲ集リ汲ムニ同シ是神境ノ風俗ナリ
御方ト云ハ方俗妻女ヲ稱スノ古言ナリ今神
宮祢宜ノ室女ヲオカタト稱スル如シ
大平記伯耆卷云名和長年カ妻ヲ大方殿ト云
大内義隆記ニ陶晴賢カ妻ヲ大方ト記セリ東
関ノ俗其女ヲ呼ヲオカタト云是オホカタノ
轉ナリ上件ノ来由ニ拠テ此獅子頭ノ狂舞ヲ
オカタヲトリト稱ス然ルモ今ノ俗卑ノ汚
蔑ノ詭奇ニオカタノ名ナキ処ニ訛轉スルニ
必セリ是穿説ニ非ルヘシ其乱舞畢リテ半夜
ニイタリ獅子頭ヲ被リ太カヲ帯シ其祭地ニ

至リテ刀ヲ抜テ四方ヲ切り拂フアリ是惡氣
ヲ追拂フノ意ナリ又其祭事ニ大炬火積木
ト云アリ各薪柴ヲ聚テ造ル然レ其状カ不
同ツム木ハ爆竹ノ状ヲ摸ス惣メ此祭ハ正徳
年中ニ至リ夜間ニ大炬火及積木ニ火ヲ点シ
燒棄ル旧制ナルニ失火ヲ恐テ今ハ其炬積
木ハ造ルト云ハ氏燒ツトハナシ獅子頭ト云
ラ其訓ノ惡キ忌避テオカシテト稱ス或ハ他
社ニ混スルヲ忌ナルヘシ惣メ此御頭神事ニ
其坊間應ノ旧昔ヨリ旧式所傳等区々ニシテ
各相同シカラズ又旧家ニ古格アリ其地ニ需
テ知ヘシ然レ大畧七社七頭氏ニ同シ或ハ古

昔ハ八社八頭アリト云其謂ハ実々他邦ノ獅子頭ニハアラス素盞烏尊ノ所斬ノ八岐大蛇ノ頭ヲ表セヨナリ其故ハ頭上ニ一角アリ其頭目口鼻ノ状ハ大畧同メ頭ハ長ク口ハ大ナリ他ノ獅子頭ニ異ナリ其七頭ノ外ニ落獅子ト云モノアリ是ハ断々ニメ劈破タルモノニメ其一片ヲ携テ狂醉メ坊間ヲ巡リテ錢ヲ薦ム落獅子ノ名古昔ハ頭アリ狂舞メ破割タルヲ今ニ補フナキモノナリ或ハ土俗天ヨリ降りタル故ニ破劈メ今ニ存スト云ハ虚誕ナリ又其八頭ハ吹上町所坐ノ世木社ヲ加入テ其数ニ填ル氏云然レ氏古昔ヨリ七頭ナル

ハレ獅子良祭典式ニ七所ノ社名ヲ載テ山田産神ノ記セリ然レハ八頭ノ蛇ヲ表セルニ非ス土俗ノ附會臆断多ク又卑俗メ祭祀ニハ神宮ニ拘ラストイハ氏古昔メ風俗ハ此祭事ニ想像スヘレ故ニ詳ニ此ニ録ス猶祭畢テ其獅子頭ニ其社宇ニ收藏セスメ火厄ヲ恐テ外宮子良齋館ニ年中正月ニ至ルマテ預収ハナリ今詳ニスルニ苗社ノ獅子頭ニ永祿二年巳未五月月岩院ト彫タリ其他六頭ニ其時ニ造ルナルハ或云中古神領疫病行ハレタル片ニ疫神ヲ攘フ為ニ処々ニ於テ造ル処ナリ然レトモ旧文人明證ナレ云ハ石碁文

雅郷談云正月獅子舞ノ鼓舞スル役人ヲ樂黨
ト稱ス外宮子良館祭奠式三月十五日白拍子
條云樂黨アリ美經記ニ畠山重忠ノ譜云君ノ
御内キリセメタル工藤左衛門鞍打テハケ國
ノ侍ノ諸司梶原カ銅拍子ヲハヒテ重忠カ笛
吹夕ラニスルハ族姓正シキ樂黨ニテソ有ニ
ト打笑ヒ仰ニシ夕方ヒ參ラスヘキ由ヲ申給
ヒソノ三人ノ樂黨ハ所々ヨリ思ヒ思ヒニ出
夕チ出ラレタリ云云百鍊抄云兼安二年六
月十四日祇園御舞會上皇有御見物殊ニ被刷
之神輿三基獅子頭三頭法四具自院被調進之
今詳云云此共苗社ノ獅子頭ニ永祿二年ノ

彫銘アルニ拠ル片ハ清在所言ノ如ク其餘六
社モ同時ニ造ル処ニノ其後歳々ニ潤色シテ
今ニ至ルナルヘシ旧傳未詳トハ氏其風俗
ハ二三百余年ノ遺風ト看ルヘシ道場世古
ハ前ニ記ス上道場中道場下道場ノ三字上中
郷ニ阿弥陀寺アリ田中町ニ神光寺アリ下道
場ハ此地ナリ寺号ナシ石寄文雅云遊行上
人ノ道場ニテアリシト云然ルニ道場トノ
稱ス故ニ此名遺レリ内宮寛正記云
新春之御慶賀千秋万歳申薙候了抑岩淵道
場為上薙来廿二日山人仕候間為御礼一向
捧候以此旨被御披露候ハハ仰所候恐惶謹

言新嘉坡各縣內新設新街八州府判務對

正月十八日 岩淵中判

進上 政所大夫殿

同返狀

新春之御吉非申蓋候了抑當少半木採用事

依禁制被停止砥物之處近年私法糸珍事候

雖然道場表菅御事候之間御心得之由以内

々可申之旨廳裁候也恐々謹言

正月十八日 岩淵中判 内宮政所大夫氏秀判

岩淵郷

御返事

是ハ内宮域ノ材ヲ剪用テ道場ヲ菅ニト請フ

処ノ贈答ナリ其中ノ形態想像ス又レ此文中

ニ道場ノ字ヲ見ル并ハ古昔ヨリ寺号ハナシ

寛正中ハ今ニイタリ三百五十余年ニ及ヘリ

坊世古真善院世古ハ其寺宇ノ建レ処トイヘ

凡其遺蹟未詳其地ニ寺塔廢レ又孰ノ地ニ移

レタルヤ不知 正寿院世古ト云アリ正寿院

ハ謬傳ナリ聖壽寺寛文中ニイタリ存スル処

ニ今前田光明寺ノ西隣ニ移セリ寛文厄後

ニ此ニ移タルナリ 青蓮寺町ト稱スルハ今

久志本ニ移ス其旧址ナリ箕曲氏社ト同時ニ

洪水ニ扱テ流セシノ漂着スル地ニ今所建ナリ

ト云其年紀未詳

箕子橋 岩淵ノ端ニ夕リ箕曲ヨリ妙見町ニ

イタル路小田河ノ下流ニ架セル石橋ナリ

旧蹟聞書云岩淵箕曲ノ末ナル橋ハ近以マテ

竹ヲ編テ其上ニ土ヲ敷テ渡リケル故ニ箕

ノ子橋ト云云

松木神社 奥松木氏宇ノ左傍ニアリ叢林ノ中

ニ小祠アリ是外宮祢宜松木氏ノ遠祖度會春

彦神主ノ灵社ナリ寛延年中其裔孫松木度會

長官智彦建營スル処ナリ昔松木ノ名美ハ古

昔此地ハ宮河分流ノ水涯ニ近ク曠野ノ爵茂

ノ松林ノ存セル処ナリ故ニ吹上町ノ東端ニ

招原口ノ名ナリ此神祠ヲ背面真通ニ徑断ル

其路ノ唯口ナルカ其地ハ松林ハ存スルナリ

ハ此度會氏ノ松木ヲ祢宜トスルハ古昔此

地ニ居セル故ナリ余ハ各宮域ニ近キ地ニ轉

住セル其便宜ヲ以テカ故ナルハ此

金鼓山光明寺 前田ニ在リ其名義ハ岩淵町ノ

南ニメ水田ノアル処カ故ニ前田ト称スルナ

リ或ハ光明寺此地ニ寛文中ニ移セルニ其境

地ノ門前ニ田圃アルカ故ニ名ク処ナリ此

然ル片ハ旧名ニテス此寺堂ハ前号世美寺

三空寺ト同ク前山亀五輪ノ地ニアリ此

孰ノ時ニヤ吹上町ニ移ス又寛文災後ニ焼亡

又再建ノ此ニ迂不処ナリ其旧地ハ今ニ吹上
町ニ存セリハ相傳聖武天皇勅管草創旧名鼓
嶽山ト稱ス天台宗ナリ建武年中往侶月波和
尚ハ氏名禪宗ニ改ム中興開山ト稱ス今洛南
東福寺ハ和利九ノ塔頭輪香処トシ住侶某
中興月波和尚ハ結城入道道忠由男ナリ故ニ
境内ニ結城上野入道道忠右塔及後白河法皇
御塔北畠中納言顯家塔ニ基アリ父結城入道
道忠ハ安濃津ニノ病ニ罹リ此寺ニ卒スト云
又其死亡ノ地ハ安濃津ハ幡ノ祠ノ後古墓ナ
リ云其真ハ木徴又後白河法皇御塔ハ後世ノ
僧侶報恩ノ為ニ建ル処ト云又奥州顯家御塔

ハ既ニ攝州阿部野ニ墳墓アリ是其主タルヲ
以テ道忠ノ塔ニ並建ル処ナリハ猶結城
道忠力自事ニ勅製軍法軍中日記ノ一篇アリ
什賞トス往年水戸黄門光美公参考天平記編
集時閱覽ニ供ス其昏云光明寺殘篇ト載ラレ
タ此ハ此昏ノ下ナリ右三塔ハ吹上町光明寺
世古旧墟ニ今ニ存セリ鐘堂非門前ハ左傍
ニアリ相傳云當寺ノ鐘ハ後深草天皇ノ朝ニ
常盤井実氏入道寄附ス処ナリ神境ノ中ニ他
寺ニ鐘ヲ撞クヲ禁ス因制ナリ故ニ天正年中
神官等是ヲ禁ル制セシトス寺僧豊臣秀吉公
ニ愁訴ス時ノ奉行上部越中守貞永ニ賜ス免

許ノ一帝アリ寺庫ニ什糞ト不是ニ扱テ今ニ
毎日酉子ノ二尅ヲ撞テ此寺ニノミテ月リ故ニ
金鼓山ノ名ヲ称ス然レハ旧名鼓岳山ト云ハ
評ニカラス人其令紙標ノ諸書ニアリ一二人
差誤傳写ニ扱テ故ニ此ニ標出ス既ニ新刊
伊勢名所園會ニ神鼓山ニ作ル非テ所金鼓
枕鐘ヲ称スルナリ也
書中遂披見候由鐘美即大神宮嫌テ了自
昔無之由聞届候得共鐘ニツ有之由未了
書付在可置候車而自是可申遺候先書
此間字如申と了へきよあは候候
此間文不解
可然義化猶近可申聞者也

十月八日

秀吉

印

奉書紙折文今ノ通例ノ書札ノ如レ其筆力巧
ナリトイヘ凡草畧ニ文字不解処多ト云
其闕文スル処忌諱アルニ似タリ察シテ識
レ今詳ニスルニ此常盤井実氏入道所附ノ
古鐘ナルカ故ニ神府ニ在制禁ノ地ニ旧ク
在レ及豊臣將軍ノ許免モ蒙リタルハ
然氏今ノ所存ノ鐘ハ其時ノ有スルニ非ルハ
レ其故ハ後條ニ弁セリ又常盤井入道玉葉集
拾芥抄云常盤井ハ春日ノ南京極大西大政大

此ニ処何レノ、処ニヤ未詳後拾遺ハ前ノ春日
小路京極ノ所在ニ近キ名寄所載ハ後嵯峨天
皇後深州天皇正元年中ニ同時ナリ前ニ同シ
トモ謂ヘシ傳光寺ニ所稱ハ信セズ又伏見常
盤町ニ所在ハ既ニ後拾遺ハ白河天皇應徳三
年九月十三日参議通俊奉勅撰ト云ニ拠ル中
ハ常盤女履歴ス平治元年ヨリ七十三年前ナ
リ是ト同シカラズ猶應徳三年ハ実氏入道存
世正元元年ヨリ百七十六年前ニ名曰ヨリ常
盤井ノ名ハ存セシト謂ハシ正元中ヨリ全文
化中ヨリナリ五百五十餘年ニ暨ハシ度會
清在旧蹟聞書云光明寺人世古也ハ寛文年

中ニテ寺アリ火災ニ鐘モ焼此処ニテ鐘鑄ア
リ其後今ノ前田ニ移ル此旧地ニ和泉式部カ
墳ナリトテ此墓所ニアリ是結城入道カ墓ナ
リ入道ハ此ニ来リ死タリ元来光明寺ニ因縁
アル人ニテ旧キ書物等アリ伊勢ニ来シトハ
大平記参考ニモ沙汰ヲ載タリ決ノ和泉式部
ニ係リタルトナシ云云又石寄文雅郷談云
吹上ニ光明寺ノ旧址アリ墓アリカナヤシキ
ト云地アリ鐘樓ノアリシ処ニヤ云云今詳
ニスルニ寛文中ニ至リ吹上町ニ建ルノトキ
火厄ニ罹リ堂宇悉ク焦土ニ変ス故ニ其旧址
ニカナヤシキト云地アリ是新鐘ヲ鑄タル処

ニノカ子屋敷ノ轉訛ナリト云文雅所言ハ嘗
常盤井入道所寄ノ古説ヲ挙テ今ノ新鑄ナル
ヲ不考ノ弊ナリ其声ハ今存スル処モ温亮ニ
ノ遠ク聞ヘシトイヘ氏銅色ハ更ニ新ナリ古
鐘ト云ヘキハ正元中所鑄トスル片ハ今ニ至
リ五百五十餘年ヲ歴ヘシ其開創ノ時寺僧所
謂聖武帝朝及正元中所鑄ニ非トスルハ今親
ク聞ノ識ヘキナリ猶正元中所鑄ハ後ニ詳ニ
ス建長中前山ヨリ此地ニ世義寺ト同時ニ移
造レルノ間建長正元中ニ此鐘モ所造ト謂ヘ
シ建長ヨリ正元々々年ハ漸ク十一年ノ後ナリ
然レハ常盤井入道所附ノ鐘ハ神境ニ移メ後

ノ設置ナルヘシ正元元年ヨリ寛文三年ニ至
リ四百六年ノ間古鐘ニノ其所賞ト同トスト
惟ヘリ又此鐘他ニ異ニメ酉子ノ二刻ヲ鼓メ
昼夜二六時ヲ鼓スルヲナシ其所由ヲ異説ア
リ後号ニ録ス悉ク信シ難シ度會清在旧蹟
聞書云光明寺ハ聖武天皇ノ勅願建立ノ寺ニ
テ中村菩提山ト同時ノ創造ナリ上古ハ前山
ニ有タリト云鼓岳山ノ号アリ中古ハ吹山ニ
在タル寛文ノ火ニ遇テ後今ノ処ヘ移シタ
リ兩寺ヲ營造ノ片ニ神宮寺ニハ大佛像ヲ寄
附光明寺ニハ鐘ヲ寄玉ノ勅定ナレハ祠官人
モ黙ノ鐘樓ヲ構メサセタリ然レ氏鐘ヲ撞テ

ヲ制禁セリ是ハ齊王ノ弟五十二代媯子内親
王ノ子ニ金葉集ニ郁芳門院伊勢ニヲハシマ
シケル片六條右大臣ノ北方内親王ノ外祖母
ナリアカラサマニ下リ侍リケルニ思ヒモカ
ケス鐘ノ声ノ側ニ聞ヘケレハヤキク
神垣の石よりとありはゆふすれありいしけぬ鐘の音より
ト出タリ是光明寺ノ鐘ヲ指メ咏タリト云又
神境ノ内ニハ鐘ヲ禁スルニ此寺ノミ許レ昼
夜六時ヲ撞ヘキニ日没中夜ヲ二度ノミナル
ハ此寺如何ナル故ニヤ武家結城氏ニ縁アル
トニテ往来モ繁カリケルニ後醍醐天皇ノ大
事ヲ起シ玉フ人始テ當リテ敵ヲ滅ス人祈禱

ノ為ニ此寺ニテ大般若經ヲ轉読セヨトノ勅
アリ即震筆ノ袖判アリ其書今ニ彼寺ニ秘藏
セリ是大般若經ヲ轉読スルニ毎日暮ヨリ始
メテ夜半ニ畢リタリ其始ト終ト此鐘ヲ撞ク
リ是鐘ヲ撞ノ始ナリ勅願ノ法事ニ就テ撞ト
ナル故ニ例トナリテ今ニ六時ヲ報セヌノ二
時ノミヲ撞ナリ云々今詳ニスルニ前記ノ
所言ニ由テ後世其開創スル処ハ聖武天皇其
后光明后ノ追薦ノ為ニ此寺ヲ建光明寺ノ号
此ニ起リ及其鐘ヲ附ス又後ニ常盤井実氏公
ノ所鑄ヲ不言ノ今ノ鐘モ聖武帝朝ヨリ所存
ト罵リタルハ非トスヘシ其開創ハ聖武帝朝

二建ト云ハ寺傳ニノ論セズ光明后追薦トス
ルハ非ナリ其故ハ聖武天皇ハ孝謙天皇天平
勝宝八年ニ崩ス皇后ハ崩後四年ヲ經テ淡路
廢帝宝字四年ニ薨セリ続日本紀ニ詳ナリ其
光明ノ名ニ拠ル片ハ淡路廢帝ノ朝ニ所建ト
謂ヘシ荒唐ナリ又金葉集所載ノ咏哥ヲ徵ノ
其鐘ハ此寺ニ限リ他ニアラス即聖武ノ朝ニ
所鑄トスルハ兼曆應徳中ヲ指メ正元中ニ後
ニ所鑄ノ説ヲ不取ノ謂ナリ然レ氏悉ク徵ト
シ唯レ猶ニ時ヲ鼓スルヲ勅誦ノ大般若經ノ
遺事ヨリ起リタルト云モ臆断ナルヘシ既ニ
郁芳門院ハ即媿子内親王ナリ白河天皇第二

皇女兼曆三年八月二日ト定アリ斎王ニ立應
徳元年十一月遭喪退下ス寛治七年正月十五
日郁芳門院ト号ス齊宮部類ニ詳ナリ今ニ至
リ七百三十余年ニ暨ヘリ然ルニ光明寺及世
美寺ハ前山ヨリ本府神域ニ移シ建タルハ大
略建長中ノ前ニ移タル如シ其年紀無拠ト云
ヘ氏通海法印參詣記ニ粗其徵ヲ載タリ前号
世美寺ノ條ニ録セリ併考ヘシ建長中ニ今ニ
イタリ五百六十餘年ニ暨ヘリ應徳元年媿子
齋王退下ヨリ訂ルニ百七十余年ノ後ナリ然
ルニ宮域ニノ百七十余年ノ後ニ移建ル処ノ
鐘ヲ聞ヘキ謂ナシ猶光明寺ハ前山ヨリ吹上

ノ地ニ移レ後ニ今ノ前田ニ移レリ世美寺ハ
宮域ノ西ニ旧址アリ光明寺ト同時ニ今ノ地
ニ革ノ移レリ然レハ媿子内親王兼曆應徳中
ト載ス片ハ此ニ寺ノ鐘ニハ非ス或ハ前山ニ
有スル片トイハ凡其地邈ニメ聞ヘキハ詳ナ
ラス其他ハ未詳今憶フニ威勝寺ノ南ニ治美
年廢寺ノ跡アリ其域ニカ子ヲト称ス地アリ
猶寺庭ノ天神ト称ス祠ハ今ノ正法寺ニ移セ
リ前号ニ詳ニス恐クハ鐘ヲ丘ニメ其鐘樓ヲ
所置ナルヘレ然レハ宮域ヨリ以西ニメ其方
位迹ニ似タリ是兼曆應徳ノ後ニ所廢ニレテ
金葉集所載ノ時ニ遇スルモ証ヘカラス然レ

凡豊太閤令書ヲ真トスル片ハ往昔ヨリ所無
ト訴フニ似リ是近時ノ習風ナリ上世華山
後白河帝王ノ仏ニ帰娼レ八百有余歳以往ハ
佛宇梵鐘ノ造立ハ更ナリ法樂舎及僧尼ノ祭
事ニ預リ其餘宮域ニ修驗者等ノ居スルト云
弊風ハ實ニ澆季兵革ノ撩亂ニ因レリ今昇平
ノ片ニ遇テ嚴禁ノ政令行ハルニ拠テ其旧古
ノ形態ヲ不察ノ量リ記スルトイフハ然レ
ハ世美寺光明寺ニ限ラス宮域ニ近キ梵刹及
梵鐘ノ所存モ多カリ寛文厄後ニ僻遠ノ地ニ
寺堂数字ヲ移サレタルニテ替ヘレ此金葉ノ
哥ニ拠テ元禄中芭蕉桃青ノ発句外神垣ヤお

といひしうけず涅槃像ノ意モ此ニ從フナルハ
レ猶ソノ鐘ノ所置常盤井入道ハ王代一覽ニ
出ト勢陽俚諺ニ所載ト云ハ氏見ル処ナレ前
ニ録ス管見ノ如シ又吹上光明寺ノ旧墟ノ西
隣ニ奥山某ノ弟宅アリ旧光明寺陪從ノ人ニ
ノ前山ニ住メ其寺ニ遷スニ從ヘリ故ニ此地
ニ居レ奥山ヲ稱トス近世東武及京撰ニ伎藝
ノ名ヲ傳フ奥山桃雲ノ家ハ是ナリ相傳云和
泉守藤原保昌ノ裔ナリ故ニ和泉式部塔ト云
アリ旧前山ニアリ光明寺ト同時ニ移メ今此
地ニ存セリ即前輩和泉式部塔ハ亀五輪ト稱
ス其貌亀状ニ似タルヲ以名ク旧地ハ世義寺

ノ墳墓ニシテ奥山圓海律師ノ塔ナリ然レニ式
部塔ニ混淆スルナルハ其塔ハ今光明寺旧
墟吹上町ニアリ又前ニ載ス鎮守府將軍北畠
顕家及結城道忠入道塔ハ建武中ニメ前山ニ
所有メ建ル処ニ非ス是光明寺中興奥山月波
和尚ノ因ヲ以テ此地ニ移テスルハ後ニ建タ
ルハ分明ナリ和泉式部カ墓碑ハ其因ナレ其
故ニ和泉州泉南郡上松村ノ地ニ和泉式部死
亡ノ旧処ニメ墓墳アリ方俗式部塚ト稱スア
リ其餘泉州ニ式部旧跡ト云三十余処アリ其
俗弊ナルハ同州日根郡谷川小島村ニ式部鏡
石楊枝ノ水及鉄漿壺ト稱ス高石アリ各式部

ノ名ヲ冒セリ悉ク信シ難シ武部ハ大江雅致
カ女ニメ上東門院ノ女官并内侍ト称ス後ニ
橋諸兄公十一世孫橋仲遠カ八男和泉守道貞
ノ妻トナレリ故ニ和泉式部ト号ス作者部類
ニ載ル処ハ陸奥守道貞ニ作ル後ニ陸奥守ニ
轉住スナルヘシ然レ氏和泉州國府ニ具メ至
リタル徵ナレ老後ニ京洛小河一條誠心寺ニ
入尼トナリ終焉ス今京極誓願寺中ニ墳墓及
軒端梅ヲ所栽ハ誠心寺ヲ此ニ迂シ其墳樹モ
移栽タリ天正中豊臣氏ノ命令ニ拠レリ此処
旧趾ニ非スト云ヘ氏京洛ニ死亡スルハ明ニ
ノ和泉州及本州ニ墳墓及塔アルヘキ謂ナレ

各方俗ノ謬傳ナリ況藤原保昌ノ裔トスルハ
非ナリ若ハ奥山氏和泉式部ニ因アル片ハ橋
道貞ノ裔ト謂ヘシ各其碑塔ハ吹上光明寺旧
址ニ今ニ存セリ

聖壽寺 同処光明寺ノ西隣ニアリ淨土宗旧本
坊柘木町ノ地ニアリ寛文火厄ノ後此ニ迂ス
旧址ヲ聖壽院ノ世古ト云前ニ并ス
遍照庵 同処光明寺ノ南岡山ノ隈ニアリ此
地ノ南北ニ列リテ丘陵ノ間ニ墳墓多シ岡本
妙見町岩淵河崎等ノ墓地ナリ曰ハ妙見町清
雲院ノ東南ニ連綿シ經峯ニイタリ下三郷ノ
古墳ナリ寛文中奉行栗山下野守命令ニ拠テ

新墓ヲ此地ニ築テ尽ク墓碑ヲ移シ改葬スル
テハナレ是神域内外ノ詣路ナルヲ以テ不潔
ヲ避テ此奉ニ及ヘリ是寛文中ヨリ後所築置
ナリ南死刑ノ地モ古昔ハ今ノ常明寺ノ以南
ニメ野池ト云ルニアリ後ニ今ノ越坂ノ北長
屋村ニ通ス路傍南藏主河ノ傍ニ移セリ又一
説ニ隱岡ト云ハ昔ヨリ墓地ナリシニヤ寛文
頃マテ公然古昔神領ニテ死刑ヲ行フナ
ク犯罪者ハ此山ニメ罵辱メ放逐シ或ハ谷ニ
擲落ス今其地ヲ地獄谷ト云或昔此地ニ寺院
アリ米十石ヲ附セレ故ニ拾石谷ト云レヲ轉
セシトモ云其刑ハ上古ノ言メ慶安寛文中

ニ到リテハ此地ニ刑場ノアリシト云云コレ
臆断ト云ハ凡其柩ナキニ非ス死刑スヘキヲ
戮セラルニハ非ス其所掌ノ宰吏ニ属セレナ
リ又宇治ハ今牛谷坂ノ西ニアリ是其柩ア
リ内宮祢宜氏經日次記云宝徳二庚午年八月
廿三日盗人六郎男於山田道捕之於宇治岡边
誅頭如此者於神宮誅事新儀也自神宮渡道後
自道後渡守護誅之例也其道前道後ハ神宮雜
例集云神三郎是謂道後貞弁三重朝明謂之道
前是ニ柩ル片ハ死刑ハ宝徳二年ヨリ推輿メ
宇治岡ハ今ノ牛谷边ナリ今ニ至リ宝徳中ヨ
リ三百六十余年ニ及ヘリ然ル片ハ死刑ナキ

ニ非ス其以往ハ例トノ尾上ノ坂ノ東ノ地ニ
ノ寛文中ニ至リ行レ処ナリト見ヘタリ又
旧記ニ北岡ノ墓ト云処ハ今ノ大世古町之北
郭外ノ走下町ヨリ越阪ニ至ル葬地ナリ是ハ
月読宮域ノ近キニアリトイヘ氏古昔ヨリ所
置ナルヘレ遍照庵ヨリ以東ニ常明寺境内
ノ後山ノ麓田間ニ沼アリ方地ノ婦女月経ノ
久ク不止者ハ此水ヲ汲テ服ス必驗アリト云
傳フアリ勢陽雜記云小田橋ヨリ五丁許良
ノ林中ニ小池アリ此神月水久ク穢玉ヲ罪ニ
扱ハ流罪ニ遇玉ヲ云故ニ諸婦人ノ帶下病ヲ
救ハント誓アリテ今ニ崩漏帶下ノ婦ハ此池

ノ辺ニメ垢穢ヲ清潔ニ侍レハ頓ニ平愈シケ
ルトカヤ又一志郡矢野ニ坐ス辛浪ノ御前ハ
此神ヲ祠タルナラシ又或説ニカリヤスキト
ハ河壽濱トテ河崎南ノ端ノ河辺ニテ輕服ノ
片垢離ヲノ過ル濱ナリ此処ヲカリヤスキト
云忌アル片ハ假屋ニ居テ其後此濱辺マテ過
ルニ扱テ此号アリト云云今詳ニスルニ小
田橋ヨリ良位爵林小沼及神祠ト云ハ其地ヲ
探ルニナシ今ヨリ百六十余年前明曆中所著
ノ時ハアリ今廢スナルヘレ然レ氏今時方俗
ノ汲用ル処ハ常明寺後ノ田間ノ小溝ナリ又
河崎南ノ濱ニメ假服ヲ襖スルト云ハ非ナリ

今方俗船江ノ天神濱ニ臨テ輕服ハ禊スルナ
リ河崎南町ノ吹上町ノ境ニ正清房橋ノ北
ニメ禊スルハ産穢ノ婦女ノ臨ム処ナリ故ニ
俗ウブヤ濱ト云月經ハ海濱ニ不臨シ其家ニ
浴湯ノ禊ス内宮ノ俗ハ五十鈴河ニ浴メ禊メ
不潔ヲ除ク其餘重服ハ二見打越浦ニ禊ス又
常ニ宮域ニ詣スルハ二見浦ニ禊ス又輕ク禊
スルハ豊宮河ニイタル其輕重其地ニ從テ異
アリ是神宮ノ例式ニアラストイハトモ方俗
ノ所用習ナリ神代卷ニ伊弉册尊筑紫小戸橋
ニ禊シ玉ヲ上中下ノ禊ノ例ニ倣フモノナル
ハシ方俗所謂リカリヤハ即假屋ノ謂ニシテ

月經ノ者ヲ居スル処ヲ云故ニ其月經ヲ指メ
モ稱ス或ハ夕ヤ氏云ハ石寄文推郷談云對屋
ノ訛ナリ内裏常御殿ノ北ニ一對屋ニ對屋アリ
リ度會清在解ノ云齋王常居ヲ下リ居テ待屋
ニ坐スナリ云云是ニ拠テ夕ヤト訓アリ又他
屋ノ字モ同シ云云是說文云漢律見姪妾不得
待祠ト云ニ雷同ノ別屋他屋ノ訓ヲ用ヘシ文
雅所謂對屋ハ温當ニ非ス此解里俗トイハ凡
雜記所載ニ拠テ他郷ニ及テ其解ニ難キヲ欲
シテ此ニ録ス処ナリ
七清水 妙見町ノ辺リ前田遍照庵ノ前田
ノ間ニ古昔ヨリ相傳フ七箇ノ清泉アリ方俗

七清水ト称ス妙見町清水世古井泉モ其一十
リ故ニシシツノ世古ノ名アリト云其六箇処
ハ今詳ニスルニ其地悉ク得ス然レモ清泉ハ
多シ所謂カリヤスギト云泉モ其大牙ノ地ニ
シテ七処ノ一ナルヘシ大和州十市郡安部村
ニ七ツ井ト云清泉アリ七処ニ湧騰メ田畝ニ
流ク故名クト云是ニ相同シ
吹上 岩淵町ノ北ニアリ其名美ハ前ニ録ス豊
宮河ノ分流月讀宮ノ北際ヨリ東ニ流テ桜堂
橋ヨリ東ニ至リ苗社池ヨリ出ル処ノ宮域ノ
一流田中セゼラキ橋ヨリ至ルモノ合ニテ
本坊ノ北涯ヲ流テ勢田河ヲ入ル処ノ古昔ハ

水脉ノ地ニ今荒曠リ野ニ河上ハ驟風ノ吹上
ル地ニ又其名ナルナリ内宮儀式帳興昏
云文和三年 甲午四月十九日於伊勢國度會郡
繼橋郷河原村吹上書寫畢為令神吏與行申出
村松長官家行神王御本勵老眼畢權祿宜度會
神王冥相ト載ス此ニ拠テ河原村ニ又小字ヲ
吹上ト云ナルヘシ今其旧ヲ弃テ富貴上ニ改
ム後世人傳テ失タレ処ナリ嘆スヘシ東ノ木
戸ヨリ道場世古ノ衢ニテ三町ニ間民屋二百
五十五宇此余東木戸ヨリ一本木ニ至ル坊間
片側ニアリ長三町是河崎南町堺ニ至リ正善
坊ノ橋ニ堺ヲ処ナリ此橋ハ本坊ニ隸レリ

其属スル小路ハ、藪ノ世古本坊ノ南ニアリ
横小路ナリ岩淵坊ノ世古ニ至ル名義ハ、次條ニ
詳ニス。正住院世古本坊ノ南ニアリ横小
路ナリ岩淵ニ至ル名義ハ、今妙見町ニアリ寛
文中災後遷ス其旧址ナリ。世古本坊ノ世古
社ナリ今町會所ヲ所置ナリ旧名清雲院世古
ト云寛文中災ニ罹リテ廢ビ今ナシ妙見町
ニ移ス。処ナリ旧址北世古氏云此寺廢ス後清
雲院ノ名ヲ存ス。本會所世古本坊ノ北ニ
アリ旧名光明寺世古ト云光明寺此地ニアリ
前ニ録ス寛文中災ニ罹リ焼ビ其後岩淵領
前田ニ遷メ今存セリ。松木世古本坊ノ南ニ

アリ奥松木ヨリ口松木ニ至リ岩淵ニ通ス横
小路ナリ。壹本木本坊ノ東ニアリ河崎南町
ニ至ル堅町ナリ南町堺ヨリ本坊東木戸ニ至
リ長ニ丁ニ十七間。御屋敷一本木ノ北西裏
ニアリ民屋總ニ存セリ其名義次條ニ録ス。
藪ノ世古ノ名義ハ、旧ヨリ岩淵領ナリ藪アリ
テ岩淵ニ至ル坊ノ世古ハ、今ノ如ク路ナク逼
ル処ナリ宝永三年十一月大火災ノ後ヨリ路
ヲ開ク故ニ竹林アルヲ以テ名ツク。旧蹟聞
書云吹上會所宝永マテ藪世古ニアリ火災已
後光明寺ノ世古ハ移リ。又寛保年中清雲院
世古ニ移ス。又此世古ノ世古本社ニ奏スル箕曲

社獅子頭毎年正月十七日此世古口ニテ七才
コシヲ養ヒ来ル処ニ會所出来ル故ニ會所ノ
庭ニテ舞スルナリ世木社清雲院世古ニ
アリ今此社坐スニ扱テ世木世古氏云旧蹟聞
書云昔ハ北宮河トテ一泓アリテ宮後町ノ北
辺ヲ流或高河原或西河原或ハ吹上村ト称シ
来レリ今ニ堰ノ土手アリ世木ノ社アリ是防
河ノ為ニ勸請シタル社ナルヘシ此世古清雲
院世古ト云寛文火後ニ今ノ処ヘ移ル石塔石
地藏十ト残シタリ此屋敷彼寺無住故ニ沽却
ノ吹上町ノ旧地此町ヘ賣讓リタリ今吹上年
寄中會所ヲ建タリ云云金誓ルニ世木ノ社

ノ名ハ北宮河ノ支流此地ニ至ル故ニ防堰ア
リシ蹟今ニ北裏ニアリ其難ヲ防護ノ為ニ此
社ヲ所置ニメ世木ハ堰ノ称ナリ前号世木寺
ノ名ニ相同シ土俗云落獅子ト云ハ古昔此社
所置ノ獅子頭ナリ氏云謬傳アリ是強テ前ニ
謂ハ岐大蛇ニ比メ八頭ニ附會スル説也未詳
一本木名義ハ同書云兩町ノ境川本防一本木
ト云ハ年旧キ榎樹ニ株アリテ今朽テ跡ナシ
是ヨリ出タル号ナリ又此辺ニ御屋敷ト云郭
内アリ是石河殿御奉行ノ片マテ公事裁許場
屋敷アリタルニ小林村ヘ引移テ後世木寺替
地ニ下サル一方ハ堀三方ハ土手アリタルニ

近年土手ハ崩レタリ云々今詳ニスルニ郡
宰石河大隅守寛永十八年ヨリ万治二年ニ至
リ在勤ナリ旧ト寛永七年羨濃州御代官岡田
伊勢守ヲ請メ奉行トス時ノ公地ナリ其後同
八年ヨリ花房志廣守奉行ノ片本郡有滝村ニ
居ノ此処ニ来リ公廳ノ地トノ裁断アリ同十
八年石河氏ノ片ニイタリ猶然リトス是小林
村ニ居ノ公廳トスル処ナリカ故ニ今ニ至リ
旧谷ヲ存セリ是今ノ稻荷小祠ヲ祭ル処ナリ
ヘレ其西北ニ鷺山ト字スル処アリ今寺院ヲ
移レ中寺町ト称ス寛文災後ニ所置ナリ鷺山
ノ名ハ今田圃間ニメノ更ニ丘岡モ去レ古昔ハ

小林兵ノ地ナリ北宮河分流ノ北ノ水涯ニシテ
鷺鷄ノ類此ニ宿ス処ナリヘレ今時ノ分野ニ
異ナルカ故ニ其名ヲ怪ムニイタレリ西河原
町河崎本坊ノ界ニシテ其附属スル寺院多シ
詳ニ次條ニ出ス
正善坊橋一本木町ノ東ノ端向河寄ニ至ル
勢田河源ニ架シタルナリ往昔堺論ニ拠テ今
ハ吹上ヨリ架ス橋長川幅ニ同メ十間此橋ヨリ
リ河寄大橋ニイタリ三町十三間又此橋ヨリ
南箕子橋ニイタリ川面四町四十五間本坊
ノ旧記ニ正善坊橋ト載ス箕曲社御棚ノ旧帳
ニ僧正坊橋ト云河寄會所古帳ニ其清浄坊橋

或古家ノ文書ニ清浄坊橋ト載ス其徴ヲ得
ナレ疑ハ其橋辺ニ正善坊ト云僧房ノアリシ
地ナルヘシ今廢ノ其地ハ未詳トイハ氏遺名
ナリトスヘシ度會清在圃炉閑談及旧跡聞居
ニ拠テ解セリ石崎文雅郷談本坊人所稱ニ拠
テ正善坊橋ト稱セリ是トスヘシ
善光寺本坊ニアリ浄土律宗江州坂本西教寺
未派ナリ本尊阿弥陀佛什寶ニ古画ノ十界
ノ図幅アリ毎年七月十六日寺堂ニ掲テ郡詣
ニ觀セシム六時不断念佛ヲ修ス寛文十
年及宝永三年大火災厄ニ免ル処ニ今ニ其
地ニ更ス宮域ニ僻遠ノ処ナレハナリ

不動院本坊御屋敷ノ地ニアリ真言宗旧岩淵
ニアリ寛文災後此ニ移ス
以下中寺町寺院ヲ載ス西河原ニ属ス多シ
本坊河崎ニ隸アリ故ニ此ニ録ス
慈眼院寺町ノ南ノ端ニアリ境内ニ稻荷小祠
ヲ祀レリ旧岩淵吹上ニアリ寛文中災後此ニ
遷ス
光輪寺慈眼院ノ北ニアリ禅宗旧西河原町ニ
アリ寛文災後コニ遷ス旧記ニ香輪ニ作ル
清寿院光輪寺ノ北ニアリ浄土宗
會福寺清寿院ノ北ニアリ浄土宗旧下馬所
アリ寛文火後此ニ移ス其旧地ヲ今會福寺世

古ト称ス
長行院 會福寺ノ北ニアリ旧田中町ニアリ寛
文火後此ニ遷ス
春耕庵 會福寺ノ西ニアリ浄土宗今會福寺ノ
院トス旧下馬所町ニアリ寛文火後此ニ遷ス
善導院 不想院廢寺ノ北ニアリ天台宗旧下馬
所前野ニアリ寛文中災後此地ニ移ス本尊善
導大師三月十四日法會アリ
十輪寺 善導院ノ北祥榮廢寺ノ隣ニアリ禅宗
尼僧ノ子院多シ境内ニ住ス
妙善院 十輪寺北隣ニアリ
不祥榮寺 今廢ス不想院 今廢ノ旧墟ヲ火各ニ院

善導寺ノ南北ノ耕地ナリ不想院ハ寛文災
後下馬所前野町ヨリ此ニ遷ス又此地ニ廢絶
ス中寺町ノ名美ハ西河原領ト河崎ノ中間
ニ寛大中寺地ヲ設置ル故ニ名ツクナリ古昔
ハ耕地ナリ
河等 吹上ノ東ニアリ旧名河辺ト云新名所歌
合所詠ノ河辺里ナリ東西二町南北ハ吹上
町堺ヨリ六丁半拾二間船江町堺ニイタル坊
間ノ訂量ナリ民屋六百五十二宇其属ス
ル処ノ小踏及坊名ハ南町吹上堺ノ北ニア
リ鍛工多シ故ニ俗鍛冶屋町ト云吹上界ヨリ
大橋ノ西詰ニ至リ坊間長三丁二十三間

里中町 其北ニアリ是河边里ノ旧名ヲ存ス
ルナリ北里中 其北ニアリ名義上ニ同シ
八ッ町 北里中ノ北ニアリ魚廊ハ北里中八ッ
町ノ兩所ニ多シ 出屋敷 八ッ町ノ良位ニ
アリ慶長中ノ後新地也 以上本街ニメ竖町
ナリ 畠町 出屋敷ノ北ニアリ古昔ハ田圃
ノ地也今民屋ヲ列ス故ニ名ツク 向河崎
里中ノ東勢田川ヲ隔テアリ故ニ名ツク
惣ノ此八街ヲ本坊間ニメ八ッ町ト名ツク
也此ニ属ス小路アリ左ニ列ス 中
門之下 古昔ノ惣門ノアリレキノ名ナリ今
廢ス 木戸ノ上界本坊ノ南ノ端ナリ南町

ニ属ス 茶屋 世古 南町ノ西ニアリ横小路
ナリ 寶樹庵 世古 南町ニ属ス西ニアリ横
小路ナリ宝樹院アル故名ク 桶屋 世古 南
町ニ属ス西ニアリ 西ノ惣門 里中ノ西ニ
アリ小路ナリ是ヨリ山田坊間ニ至ル本路ニ
メ山田宮河ヨリ詣客ニ見浦ニ至ル便路也故
ニ此惣門ヨリ宮後町月讀宮ノ木戸ニ至ル歩
程ヲ量ル 宮後北木戸ヘイタル九丁十五間
半又大世古走下木戸ニ至ル十一町廿一間
又二見浦立石崎ハ至ル六十六丁半十九間
惣ノ本坊ニ四郭ニ各四大門アリ惣門ト云是
弘治年中ヨリ遺制ナリ今ニ此処ト八ッ町ヨ

リ船江町ニイタル坊間ニ大門アリ此ニ処ノ
ミナリ其餘向川崎及南町ノ二処ハ火災ニ罹
リテ廢絶ス其由来次條ニ載ス 藪之世古
北里中ノ西ニアリ横小路ナリ 中ノ世古
北里中ノ西ニアリ 西ノ世古 八ツ町ニア
リ其町ニ屬ス横小路ナリ又南北ニ折テ豎小
路アリ同名ナリ 北ノ端 八ツ町ノ西ノ北
ニアリ其町ニ屬ス舟江及大湊ヘイタル本路
ナリ惣門アリ前ノ西ノ口ニ同シ 風呂屋世
古 出屋舗ノ西北ニアリ 庚申町 出屋敷
ノ北ニアリ畠町ニ屬ス 向河崎ニ隸ル小路
ハ大世古 太橋ヨリ宇治ニ至ル本路也

門之上 大世古ノ南ニアリ所謂惣門ノ辺ナ
リ 門之下 惣門ノ今木戸ヨリ宇治ニ至ル
本路ナリ 宇治道門ノ下ヨリ宇治ニイタル
小路ナリ故名ツク 正善坊片町 門之下ヨ
リ正善坊橋ニイタル小路ナリ 御藏町 門
ノ上ヨリ西ニ入ル小路ナリ 古昔奉行ノ倉廩
アリシ地ナリ故名ツク 石地藏 世古 大世
古ヨリ西ニ入ル横小路ナリ 中ノ世古 大
世古ヨリ西ニ入ル小路ナリ 垣外 大世古
ヨリ東ニ入ル横小路ナリ 河岸町 大世古
ヨリ南ニ入ル豎小路ナリ 羨濃倉 大世古
ヨリ北ニ入ル小路ナリ 羨濃州代官岡田伊勢

守郡宰ノ片倉廩アル地ナリ故ニ名ツク四
ツ屋大世古ヨリ北ニ入ル小路ナリ大橋ヨリ
ニ見浦ニ至ル本路ナリ葦原町四ツ屋ノ
北ニアリ上ニ同シ東木戸ヨリ久志本村ニ至
ルニ丁半十五間神田村ヘイタル其程三丁十
四間是本坊東北ノ限ナリ大橋里中町ヨ
リ東向河寄ニ架スル処ナリ下流ハ勢田川ニ
ノ古昔ハ船ニメ渡ル新名所哥合モ是ニ拠レ
リ橋長サ九間幅二間板ヲ以テ架ス欄干ア
リ向河寄南ノ端宇治道口ヨリ内宮領古市
ニイタリ十三丁半三間

勢田川 水源ハ前山人卒都婆壙ノ谷川ヨリ出

テ京津水原村ノ東ヲ流テ豊宮崎ニイタル一
流ト又鼓岳ヨリ出ル処蓮臺寺村ニ至リ豊宮
崎ニメ一流ト合メ滝波橋ヨリ一流トナリ岡
本ノ南ヲ経テ小田橋ニ至リ東ニ流レ又豊河
宮域ノ西ヨリ流ルト蓄池ヨリ出ル流ト一流
ニ合メ岩淵ノ南ヲ経テ小田橋ノ東ニメ一流
トナリ箕子橋ヨリ光明寺ノ北涯ヲ過テ正善
坊ノ橋ニ至リ又北宮河分流ノ月読宮域ヨリ
西河原吹上ヲ経ル一流ト都テ合シ勢田川ニ
入処ニテ其東スルニ至リ箕曲郷ノ村邑久志
木黒瀬通村小木阿竹田尻一色神社等ヲ経テ
今一色ノ東ヨリ大湊ニ至リ東海ニ入レリ其

水脉ノ長遠ニメ又北宮河或豊宮河及前山人
溪泉宮域豊河御池ト分流坊間ノ溪水各西北
ヨリ此地ニ會ス処ニメ洪水ノ患多レ然レ氏
諸州運漕ノ賈舶湊集ノ米穀柴薪魚塩菜蔬ノ
供スル処甚繁盛ナリ勢田川ノ名ハ水源大
略豊宮崎錦河内ヨリ尾上川ニイタリ川崎及
下流ト大湊今一色ニ至テ惣名ナリ
弘治三年注進狀云

豊受大神宮神主注進早可被達御披露勢田
河子細之事右彼勢田河者上自錦小河下至
湊高城一向宮地諸神莫同御塩造立材木者
岸彼此有謂所之地也云云如先規於御崇敬

可然旨被成御異見者御武運長久可目出之
狀注進如件以解
是外宮貴彦神主引付ニ見エ夕リ神境雜話及
郷談ニ引證トス外宮召立記云御材木悉
流著頭衆行向テ是ヲ引シム或ハ湊辺へ流来
ヲハ濱ノ面々河崎造引之山田三方郷々ヨリ
之ヲ引ト云ヘリ清在每事問ニ載ス上ニ所謂
ノ上自錦小河下至高城一向宮地ト載ルニ拠
テ尾上河モ御贄河ノ轉訛氏云又古昔迂宮ノ
材木モ此地ヨリ引タルニ拠テ弘仁ノ注進狀
ニ載タル処ナリ孰レ神境ノ域内ニメ今ニ至
リ神宮所知ノ如シ運漕ノ御贄ヲ進ニ或毎九

月十五日外宮祓宜高城濱ニ神嘗祭ノ被禊ニ
舟ニ乗テ至ル是ヲ濱出神事ト云此地ノ水涯
ヨリ艫ヲ解クニ至レリ其餘此川ニ扱テハ所
知ノ今命等ヲ神宮ヨリ執行ハル処多シ
相傳此川古昔ハ濶十八間ナリト云今ハ半ハ
坊間ニ築テ民人所居トストニヘタリ然ル片
ハ稍ク本街ハ西ノ位ニ民戸アリニナルヘシ
向河崎ト云モ東ニ民居アリ今ノ如ク綿聯ト
相列ルハナシ故ニ河東ニモ居メ兩對メ其流
ヲ狭クタルト惟ハシ其渡口ハ今ノ大橋ノ所
架ナリ其名所拾遺集注云古老傳ニ山田町ノ
良河崎ト云舟着テ昔ハ河辺里トマズレキ勢

伊太川ヨリノ舟入ナリ云云

新名所哥合

大中臣定忠

浪とやく河邊の岩夕園のうれハおれ月夜けくま息

荒木田尚良

伊人やくれまを家よりつむらん河邊の里小飛堂ハ那

僧都行室

むしりん河邊の里れみしうおむむ福の木れりり月

荒木田延行

浦魚丸河邊の里れなひき藤よ入垣と色く死侍とて

法眼能圓

あ月るよ河邊の岸れううう浪とまうく垣やうんら

荒木田長典

水増れ河迄の里れ五月雨よ入内ちかくよ奉承毎人

さいしよは流うあつき水まきう河迄の里れ五月雨乃以

五月雨けらぬ思ひし程らく河迄の里よとゆらむむ

全 成言

澹入の川魚れまこしこす浪よ里うきうけて死何る式

大法師良玄

るそく河迄の里れ夕やうよ已まとも飛けらるう形

荒木田経頭

昨夕たれ河迄をりけて越境よ里も原も松尾をりく

大法師圓親

五月雨のみよきとまつてうん境よ河迄の里をみよふこ

全 良誉

竜飛河迄の里乃夕言よ色うけらるえ年暮らたちを

全 尊親

るそく河迄の里れ夕言よ新しさいひし飛何れ

全 良惠

かまこりれ流る下葉の五月雨よ河迄の里を浪や城よ

荒木田定頭

水増れ河迄の里乃五月雨不列ぬまこしを浪を委くれ

産神社 北里中町會所ノ隣ニアリ祭神未詳相

傳云八王子ヲ奉祀スト云木田角田時

天神祠 同 町會所ノ境内ニアリ

牛頭天王祠 八ツ町西ノ世古ニアリ祭神素盞
鳥尊 俗天王ト称ス 荒木田武季旧記云河
寄西世古天王神社ハ往古ヨリ石疊ニ石体ニ
テ坐シケルニ享保四年己亥ヨリ四十四年前
疫病流行ノ節寺本善十郎浄覚夢想ニヨリテ
ハシメテ宫殿ヲ建ル由依之遷宮モ町内ノ構
ヒナシニ数年ヲ歴テ今ニ至ルトソ云云
今詳ニスルニ寛政二年十一月公裁ヲ經テ社
域ヲ大智庵ノ地ニ廣ク築キ建大智菴ハ不動
堂ノ東隣ニ移メ新ニ本祠ヲ建テ迁宮ヲ執セ
シ也其庵ハ旧ハ前面ニ不動堂アリ其後ニ僧
房又所置ナリ 荒木田武季ハ内宮権祢宜ト

ノ下津氏ノ徒ナリ享保四年ヨリ前ヲ訂ルニ
延宝四年ノ時トスヘシ是神祠ヲ設ル処ニ
其先ハ知ヘカラス毎歳六月十四日祇園會ニ
働ヒテ私ニ坊間祭式アリ



勢陽五鈴遺響度會郡卷之八

世出之長新聖書會雅方定八世古

身身一松天正十

聖聖世古天正神法

下集日

在存法

分路

明之長妙

德法

以通

着下



紙數七拾枚

170

